

人口問題資料第十五輯

道府縣別農業本業者數及其年齡構成

財團法人 人口問題研究會



人口問題資料第十五輯

道府縣別農業本業者數及其年齡構成

——本會理事法學博士 上田貞次郎氏報告——

財團  
法人 人口問題研究會

はしがき

本稿は本會理事法學博士上田貞次郎氏の研究報告の一部である。人口問題研究上重要な資料たるを以て印刷に附し參考に供する次第である。

昭和十一年三月

財團法人  
人口問題研究會

## 目次

はしがき

一、概説

二、府縣別農業本業者の増減

三、全國農業本業者年齢構成

四、道府縣別農業本業者年齢構成

五、附 表

一頁

四

六

八

二



## 道府縣別農業本業者數及其年齡構成

### 一、概 説

本調査は財團法人人口問題研究會の委託により現に實施しつゝある我國人口の職業に關する研究の一部であるが、社會政策若しくは産業政策上實際の施設に對し參考資料を提供したき希望に基づき、自分の研究の完了に先だつて早く發表する次第である。計算に用ひたる材料は大正九年及び昭和五年の國勢調査の府縣別報告であつて、昭和五年の分は最近に各府縣の分冊發行が完了したばかりである。

我國にて農村人口の都市への移動が盛に行はれつゝあることは一般に知られた事實である。前記二回の國勢調査の間の十年間に全國人口は八百四十萬の増加をなしたが、この中で東京・大阪・京都・神奈川・愛知・兵庫・福岡の七大都市府縣に吸収されたのが實に四百三十萬、即ち半分以上になつてゐて、農業を主とする諸縣の吸収した分は案外に少い。又郡市別に見ると昭和八年四月一日現在の百二十一市の市域に吸収された割合は増加人口の六二%に達し、郡部の吸収は三七%餘に過ぎない。更に昭

和五年の職業別本業者中農業に従事する男女總數は一千四百十萬であつて、大正九年のそれより少しも増してゐないのである。農業人口は減少はしないが、又増加もしないで足ぶみしてゐた。従つてこの期間に増加した有業者の全部は他の職業に吸収されたといつてよい。即ち人口が農村より都市へ、農業より都市的職業へと移動しつつあることは實に全國の大勢であつて、その大勢を數字に表はせば大體右の通りである。

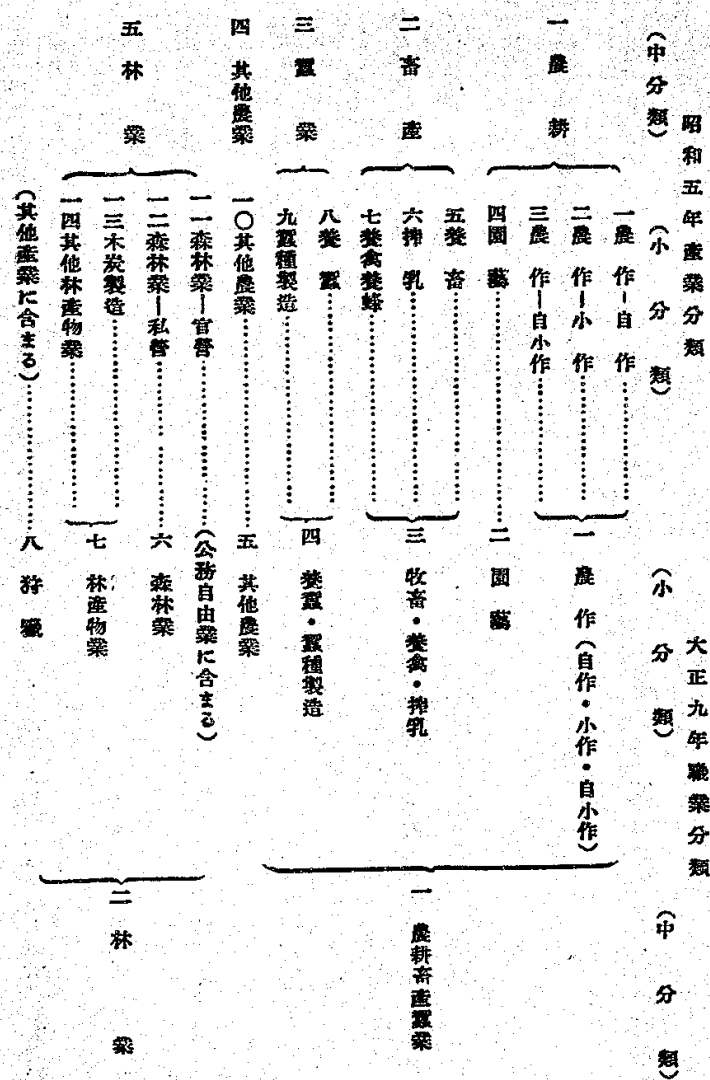
然るに以上の數字は何れも日本内地を一括しての話であり、又男女老若を一括しての話である。我國内における人口移動の眞の姿を知るには次の二つの點を明らかにしなければならぬ。(註一)

第一、全國的に見て農業人口の増加せぬといふのは、何れの地方でも一律に停止してゐるのでなくして、或地方では増加し、或地方では減少してゐるのであらう。それを府縣別にしたならば如何なる事實が現はれて來るか。

第二、農村から都市への人口移動といふのは如何なる年齢の男又は女が農村を出るのであるか。又反對に都市から農村へ歸る者もあるのではないか。これ等のことを府縣別にしたならば如何なる事實が現はれて來るか。

(註一) 右の事實を考察するに當つて職業統計につき一言しておく必要がある。本文に前に示した數字は大正九年の職業別大分類の農業と昭和五年の職業別大分類の農業とを比較したものであるが、昭和五年の國勢調査ではこの外に産業分類なるものがある。大正九年の分類は、名は職業分類でも實は産業分類に近きもので、従つて内閣統計局でも、大正九年の分類との比

較は、嚴密にはその組立てが異なるために不可能であるが、大正九年の分類と昭和五年の産業分類とを比較すれば稍正鵠に近きものを得るであらうといつてゐる。兩者の比較につき統計局の示した方法の中、農業に關する部分を摘記すれば次の如くなる。(統計時報、昭和九年九月號)



即ち官營森林業と狩獵を組更へることによつて、まづ大過なき比較をなし得るわけである。但し兩者とも本業者の数は少く前者が全國で三萬五千、後者が九百を數へるに過ぎぬ。

かくの如く兩年度の比較では昭和五年の産業分類を用ふるのが適當であるが、本文の第二の點即ち年齢を見ようとする場合に、産業分類では本業者の年齢構成を示してゐないのである。然し昭和五年の職業分類には年齢別を示してゐるので、年齢構成には之を代用することにした。産業分類と職業分類とはその分類の方針を全然異にするのでこの比較は危險であるが、我國の農民は職業別にしても産業別にしても何れも同じ分類に入るべき實のものが多から、この比較もさまで大なる誤を犯すとは思はれない。昭和五年の産業別と職業別との農業を比較して見ても、女子においては殆ど差なく、男子の職業別が産業別に比し北海道で二萬多いが目立つだけで、其他秋田で二千五百少く、東京で二千多く、岐阜で一千少く、靜岡で一千多く、高知で一千多きを差の著しきものとするだけである。従つて大數の觀察としては之も許さるべきと思ふ。尙大正九年の數字にも昭和五年の數字にも失業者が前職の分類で有業者に數へられてゐる。大正九年の數は不明だが、昭和五年の農業失業者は少くして全國で一萬五千に達するのみである。従つて本文ではこの數を差引することなしに比較してゐる。

## 二、府縣別農業本業者の増減

全國一道三府四十三縣のうちで農業本業者の増加した地方は一道二十一縣、減少した地方は三府二十二縣である（昭和五年産業別大分類と大正九年職業別分類の比較）。即ち

増加したる地方

北海道、青森、岩手、宮城、山形、福島、茨城、栃木、千葉、富山、長野、兵庫、奈良、和歌山

鳥取、廣島、山口、愛媛、福岡、佐賀、宮崎、鹿児島  
減少したる地方

東京、大阪、京都、神奈川、愛知、秋田、群馬、埼玉、新潟、石川、福井、山梨、岐阜、静岡、

三重、滋賀、鳥根、岡山、徳島、香川、高知、長崎、熊本、大分、沖縄

である。これが數字は第一表の如くであり、之を昭和五年における本業者の多い順に配列した圖表が

### 第三圖表である。

併しながら右の數字には前節末尾に述べた所の「森林業—官營」が昭和五年の分に含まれてゐる。より正確を期する場合には之を差引いて考へなければならぬ。然し之を除くよりも大正九年の分類中「農耕・畜産・蠶業」と昭和五年の中分類「農耕」「畜産」「蠶業」「其他農業」の合計を比較することは、林業を除いた所謂農業の盛衰を見る上に便利であるから、この數字を比較して見るとにした。この比較においても増減の地方的差異は前の場合と殆ど同じである。この狭き範圍の農業を表示したのが第二表であり、更に前と同様昭和五年における本業者数の多い順に配列したのが第四圖表である。又第二表の増減率を地圖に示したのが第五圖である。

一、農業本業者の目立つて増加したのは北海道と東北諸縣、九州の鹿児島、宮崎の諸縣である。東北の中で秋田縣のみは三％を減じたが、これも男を見れば却つて増加してゐるのであつて、減少は全く女本業者の著減によるものである。

二、減少は大都市のある府縣及び近畿北陸の諸縣において著し。兵庫、奈良、和歌山等はその例



外をなしてゐるやうに見えるが、これも男のみについて見れば減少著しきものがある。近畿以西でも中國、四國には減少せる縣が多く、總數の減少しないものでも男の本業者は多少減少して來た。これに反してこの地方には女の本業者を増した所が少くない。

三、増減の比較的少き地方としては關東、東海、東山の諸縣を擧げることが出来る。この地方では一般に男の微増と女の微減とが相補つてゐる。女本業者の増したのは長野一縣だけで、同じ蠶業縣でありながら群馬では著減し、その他の諸縣でも女は減少してゐる。男女ともに減少したものに埼玉、山梨、静岡、岐阜があり、男子の増加によつて幾分でも總數の増加を伴つたものに茨城、栃木、千葉がある。總じてこの地方の女本業者に減少が現はれてゐることは中部以西、殊に關西地方における女子の増加と好對照をなしてゐる。中國、四國でも總數の増減は少いのであるが、この地方では女子の増と男子の減で相補ふもので、關東地方とは趣を異にしてゐる。九州諸縣も増減は比較的少いが、鹿児島、宮崎の如く激増した所があり、長崎、沖縄の如く著減した所もある。

### 三、全國農業本業者年齢構成

第二の問題は第一の問題よりも複雑であるが、それに答へる便法は大正九年と昭和五年と二回の調

査による農業本業者の年齢構成圖を作つて、それを重ねて見ることである。まづこの方法を全國の農業本業者總數に應用すると第六圖表を得る。而して農業の特色を一目瞭然たらしむるために對照用として工業及び商業本業者の年齢構成圖を添えて置く。(註三)

(註二) 第一節の末尾にも記した通り、年齢構成の比較は大正九年の職業別大分類に昭和五年の職業別大分類を比較したのである。分類の性質上この比較には多少の難點があるけれども、資料の關係上やむを得なかつたこと、農業に關する限り大なる誤を犯さないだらうと考へたからである。商業・工業についてはこゝに掲げた圖表が昭和五年の抽出法を用ひたことと分類の性質上からと、二つの點から正確なる比較とは稱し得ないが、これとて大勢の觀察には差支なからう。商業・工業では失業者が多いので、昭和五年の分は差引いておいた。尙昭和五年との比較をなすために、大正九年の工業から調査設計家を除き、製鹽業を加へた。又大正九年の調査では六十歳以上を一括してゐるので、これも省いた。

右の農、工、商の年齢構成圖を比較すれば大體において次のことがいへる。

一、商業においては男女ともに各年齢を通じて昭和五年の數が大正九年よりも多くなつてゐる。工業では各年齢を通じて男は増加し、女は減少してゐる。農業では男女とも四四歳までが減少し、それ以上の年齢層が増加してゐる。

二、年齢構成の型を見るに、工業では男女の割合が非常に違ふが、若い年齢ほど人數は多く、年齢の高まるに従つて少くなつてゐる。商業では工業ほど整然たる型ではなく、年齢の高いものも相當に多くある。然るに農業では十五歳以下を別とすれば、最低層の十五—十九歳で突出してゐる

外、最高層に至るまで大なる差異がない。恰も同じ長さの材木を重ねた形をなしてゐる。男女の数の著しく違はないことも農業の一特色である。

かゝる年齢構成及びその變化が何を意味するかといふに、農業にあつて一五—一九歳の者が多いに拘らず、その上の年齢階級で急に少くなつてゐるのは、一五—一九歳でこの職業に入るもの、一部が二十歳以上になつて他の職業に轉じて行くのである。蓋し若しも彼等が農業に留まるならば、年齢の高まるにつれて階段的に漸次少くなつてゐる道理である。ところが反對に四十五歳以上の層に於いても、二十歳臺、三十歳臺に比し殆ど減少してゐないのは、この頃の年齢になれば他業に轉ずる者殆どなく、むしろ他の職業をやめて歸農して來るもの、あることをさへ豫想せしめるのである。蓋し昭和五年の五〇—五五歳のもは十年前に四〇—四五歳であつたことは申すまでもないが、その生殘の割合が幾分高いと思はれるからである。

#### 四、道府縣別農業本業者年齢構成

次に右と同様の方法で各府縣の農業本業者の年齢構成を圖表化したのが第九表として掲ぐる所の合計四十七の圖表である。これを仔細に點檢すれば種々の結論が得られるだらうが、少くとも次のことがわかる。

一、年齢構成は各地方一様でない。一方において北海道及び東北型とも稱すべきものがある。それは前に示した全國の型とは全然趣を異にし、年齢の高まるにつれて階段的に人員が少くなつてゐる。而して男女の數は大差ないから全體が無頭のピラミット又は梯形をなしてゐる。この型に屬するものは大體本文第二節の第一類に入る諸地方である。

二、右と相對して他の一方に關西型ともいふべきものがある。それは京都、滋賀、福井等の如く、最下層から最上層まで人員の差が至つて少く、全く同じ長さの材木を重ねた形であつて、第二節で第二類に屬した諸府縣である。

三、而してこの二つの型の中間のものが關東、東海、東山、中國、四國、九州に現はれてゐる。第二節第三類の諸縣は大體この型に近い。但し東北でも福島は關東型に近く、中國、四國諸縣は關西型に近い。この中間型にあつては男の一五—一九歳が突起してゐる場合が多く、これは全國の型と同じである。然るに女の方はこの最低の年齢層が一段上のものよりも却つて引込んでゐる点がある。若い女の女中奉公又は女工としての出稼がこゝに現はれてゐるのではないか。そして高き年齢層になつて前よりも多くなつてゐるのはそれ等の歸農が現れてゐるのではなからうか。

(鹿兒島、兵庫、富山の如き)。

四、大正九年と昭和五年との比較においては各年齢を通じて減少せる地方と増加せる地方とあり、

又年齢により男女の性によりて増減區々なる地方がある。各年齢を通じて一齊に増加したのは北海道、東北である。各年齢を通じて減少したのはまづ東京に限られてゐるが、多くの關西の府縣にては四十歳又は五十歳以下のものが減少し、それ以上のものが増加してゐる。女の農業本業者の著しく増加した地方として長野・奈良・兵庫・山口・福岡・鹿児島等を挙げ得べく、女の激減したものとして新潟・群馬・埼玉を挙げ得るが、これは果して事實であるか、又は前後の統計のとり方に手を異にしたためであるかに疑問を持たしめる。女の増加が關西地方に著しいのは養蠶業西漸と關係がありさうに見えるが、これ等は各地方の實情に通じた人の説を聞いた上でなければ判断を下すことが出来ない。



# 附 表

(9)	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
道府縣別農業本業者年齢構成圖	全國工業本業者年齢構成圖	全國商業本業者年齢構成圖	全國農業本業者年齢構成圖	農業（農耕、畜産、蠶業）本業者の増減地圖	農業（農耕、畜産、蠶業）本業者の増減比較圖表	農業本業者の増減比較圖表	農業（農耕、畜産、蠶業）本業者の増減	農業本業者數の比較
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
二	七	六	五	四一五	四一五	四一五	四	三頁

第1圖 農業本業者数の比較

	總 数				男				女			
	大正9	昭和5	増	指数	大正9	昭和5	増	指数	大正9	昭和5	増	指数
全 國	14,128	14,131	3	100	7,750	7,735	-15	100	6,378	6,396	18	100
北海道	484	542	58	112	272	303	31	111	212	239	27	113
青森	230	245	15	107	117	128	11	109	113	117	4	108
岩手	287	319	31	111	163	168	5	103	124	150	26	121
宮城	270	293	23	109	157	169	12	108	113	124	11	110
秋田	285	280	-5	98	160	168	8	105	125	112	-13	90
山形	310	322	12	104	170	183	14	108	140	139	-1	99
福 島	451	474	23	105	234	239	4	102	217	235	19	109
茨 城	534	540	10	102	250	260	11	104	281	280	-1	100
栃 木	309	313	4	101	164	167	3	102	145	146	1	101
群 馬	325	306	-19	94	186	189	3	102	139	117	-22	84
群 馬	453	430	-23	95	243	240	-4	98	210	190	-19	91
群 馬	467	472	5	101	218	225	-7	103	249	247	-2	99
千 葉	168	150	-18	89	119	107	-12	90	49	43	-6	87
京 都	184	165	-18	90	117	111	-6	95	67	54	-12	82
神 奈 川	587	555	-32	95	294	306	12	104	283	249	-44	85
新 潟	194	196	2	101	109	105	-4	96	85	91	6	108
富 山	202	180	-22	89	102	95	-7	93	100	86	-14	86
石 川	175	161	-13	92	85	81	-5	95	89	80	-8	90
山 梨	196	188	-8	96	108	105	-3	97	88	83	-16	94
長 野	513	537	24	105	280	282	2	101	233	255	22	109
岐 阜	325	316	-10	97	182	187	-5	98	133	128	-5	97
静 岡	415	404	-11	97	233	225	-8	97	182	179	-3	98
愛 知	450	439	-11	97	262	246	-16	94	183	193	5	103
三 重	310	289	-22	93	162	153	-9	95	143	136	-13	91
滋 賀	223	207	-17	93	111	106	-5	96	113	101	-12	89
京 都	208	186	-22	89	116	108	-8	93	92	77	-15	84
大 阪	165	164	-1	99	126	120	-7	95	39	44	5	114
兵 庫	395	412	17	104	253	243	-10	96	142	169	27	119
和 歌 山	113	116	3	103	89	83	-6	93	24	33	10	140
鳥 取	143	149	6	106	92	93	2	102	51	56	5	110
島 根	160	163	3	102	80	79	-8	99	79	84	4	105
廣 島	254	249	-6	98	135	132	-3	98	120	117	-3	98
岡 山	383	358	-24	94	214	206	-8	96	169	152	-17	90
廣 西	374	376	2	101	213	206	-7	97	160	170	9	106
山 西	253	269	2	104	150	144	-6	97	108	125	17	116
德 島	217	214	-2	99	108	108	-	100	108	106	-2	98
香 川	198	196	-2	99	105	104	-1	99	93	92	-9	99
高 知	275	277	2	101	167	183	16	97	107	114	6	106
富 山	208	205	-3	98	111	111	-	99	97	94	-3	97
石 川	352	364	12	103	189	194	5	102	163	170	7	104
福 井	174	175	1	100	91	92	1	102	84	83	-1	99
佐 賀	283	264	-20	93	142	138	-4	97	141	126	-15	89
長 門	404	399	-5	99	204	208	4	102	200	191	-8	96
熊 本	302	295	-7	98	152	150	-2	99	150	144	-6	96
大 分	218	234	16	107	122	129	6	105	98	105	9	110
宮 崎	490	544	54	111	258	263	5	102	233	232	-4	121
鹿 兒 島	213	203	-10	95	124	114	-10	92	89	89	-	100

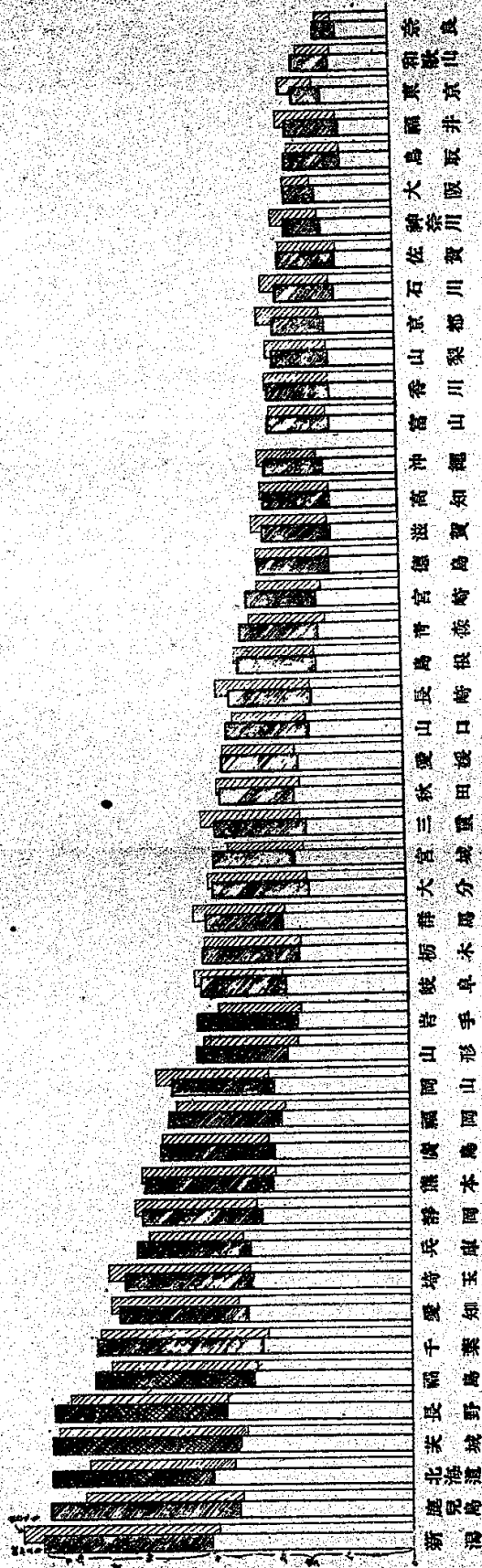
註 1. 大正九年職業大分類農業者と昭和五年産業大分類農業者トヲ比較セルモノ。  
 2. 単位千、千人未満ハ四捨五入。  
 3. 指数ハ大正九年ヲ100トセル昭和五年ノ指数。  
 4. 「増」ノ欄ニオケル「-」印ハ減少ヲ示ス。

2 農業(農耕、畜産、蠶業)本業者の増減(單位千)

	總 數				男				女			
	大正9	昭和5	増	指數	大正9	昭和5	増	指數	大正9	昭和5	増	指數
全 國	13,939	13,944	5	100	7,593	7,579	-14	100	6,346	6,365	19	100
北 海 道	471	527	56	112	260	290	30	112	210	236	26	112
青 森 縣	225	238	13	106	113	122	9	109	112	116	4	104
岩 手 縣	280	312	31	111	158	163	5	103	123	149	26	121
宮 城 縣	237	291	23	109	155	197	12	108	112	123	11	110
秋 田 縣	279	271	-8	97	155	160	5	103	124	111	-13	90
山 形 縣	305	316	12	104	166	179	13	108	139	137	-1	99
福 島 縣	442	466	24	105	228	233	5	102	214	233	19	109
茨 城 縣	529	538	10	102	248	259	11	104	280	279	-1	100
栃 木 縣	304	310	6	102	161	164	4	102	143	145	2	101
群 馬 縣	322	304	-18	94	183	187	4	102	138	117	-22	84
群 馬 縣	451	429	-22	95	241	239	-3	99	209	190	-19	91
埼 玉 縣	466	471	6	101	217	225	8	104	249	247	-2	99
千 葉 縣	166	148	-18	89	117	105	-12	90	49	43	-6	87
東 京 府	183	165	-18	90	116	110	-6	95	66	54	-12	82
神 奈 川 縣	580	550	-30	95	288	301	14	105	292	249	-44	85
新 潟 縣	192	194	3	101	103	104	-4	96	84	91	6	103
富 山 縣	199	178	-21	90	99	92	-7	93	100	86	-14	86
石 川 縣	170	158	-12	93	82	78	-4	96	89	80	-9	90
山 梨 縣	194	186	-8	96	106	103	-3	98	88	83	-5	94
長 野 縣	506	529	22	104	274	275	1	100	232	254	22	109
岐 阜 縣	320	309	-12	96	188	182	-7	96	132	127	-5	96
靜 岡 縣	409	400	-9	98	228	121	-6	97	181	178	-3	98
岡 崎 縣	449	437	-12	97	261	145	-16	94	188	192	5	102
愛 知 縣	300	282	-18	94	154	147	-6	96	147	135	-12	92
滋 賀 縣	220	205	-16	93	108	105	-4	96	112	100	-12	90
京 都 府	203	183	-20	90	112	106	-6	94	91	77	-14	93
大 阪 府	164	163	-1	99	125	119	-7	95	39	44	5	114
兵 庫 縣	330	408	18	105	248	239	-9	96	141	168	27	119
和 歌 山 縣	107	112	6	105	83	79	-4	95	24	33	10	140
鳥 取 縣	135	141	6	104	86	86	1	101	50	55	5	110
島 根 縣	158	161	3	102	79	78	-1	99	79	83	4	105
廣 島 縣	251	244	-7	97	132	128	-4	97	119	116	-3	97
岡 山 縣	331	357	25	94	212	204	-8	96	169	152	-17	90
廣 西 縣	371	372	2	101	211	203	-7	97	160	169	9	106
山 口 縣	255	266	10	104	147	141	-6	96	108	125	17	113
德 島 縣	214	212	-2	99	106	106	—	100	108	106	-2	98
香 川 縣	198	195	-2	99	105	104	-1	99	93	92	-1	93
愛 媛 縣	272	274	2	101	165	161	-4	97	107	113	6	106
高 知 縣	202	195	-6	97	106	102	-3	97	96	93	-3	97
福 岡 縣	351	362	12	103	188	193	5	103	163	170	7	104
佐 賀 縣	174	174	—	100	90	92	2	102	84	83	-1	99
長 崎 縣	281	282	1	93	140	136	-4	97	140	125	-15	89
熊 本 縣	400	393	-7	98	201	203	2	101	199	190	-9	96
大 分 縣	399	292	-7	98	149	148	-1	99	149	144	-5	96
宮 崎 縣	203	224	15	107	115	121	6	105	94	103	10	110
鹿 兒 島 縣	485	538	52	111	254	258	4	102	231	280	49	121
沖 繩 縣	212	202	-10	95	124	114	-10	92	89	88	-1	100

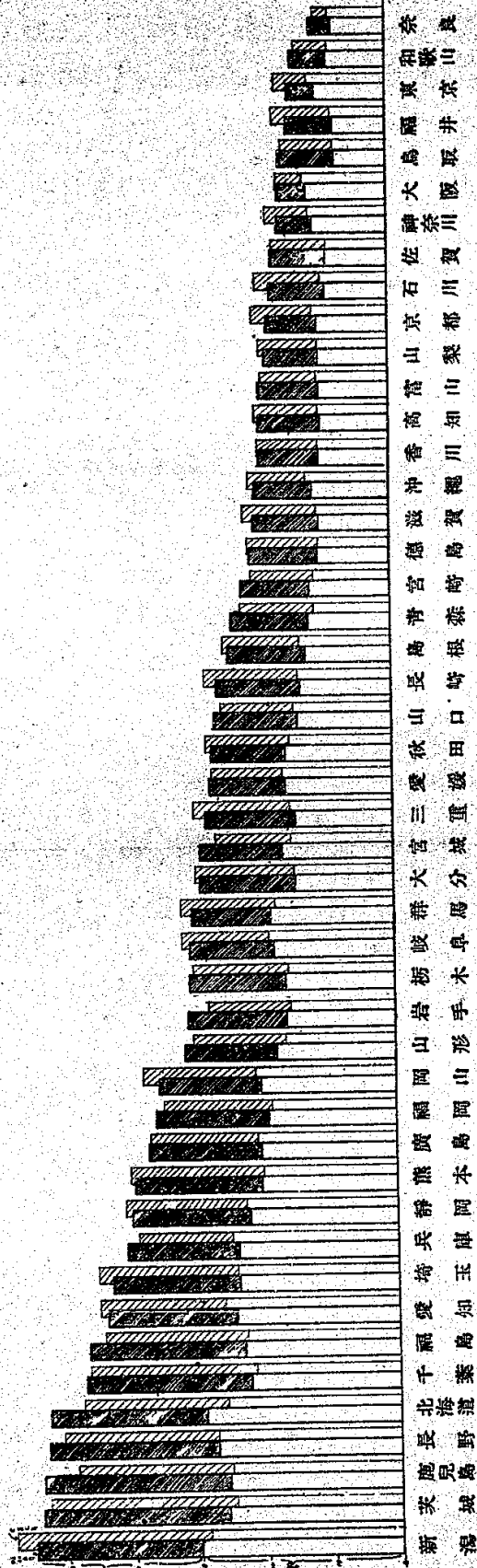
3. 農業本業者の増減比較圖表

左、昭和五年總務省調査  
 右、大正九年農務省調査  
 (上部、女子、下部、男子)



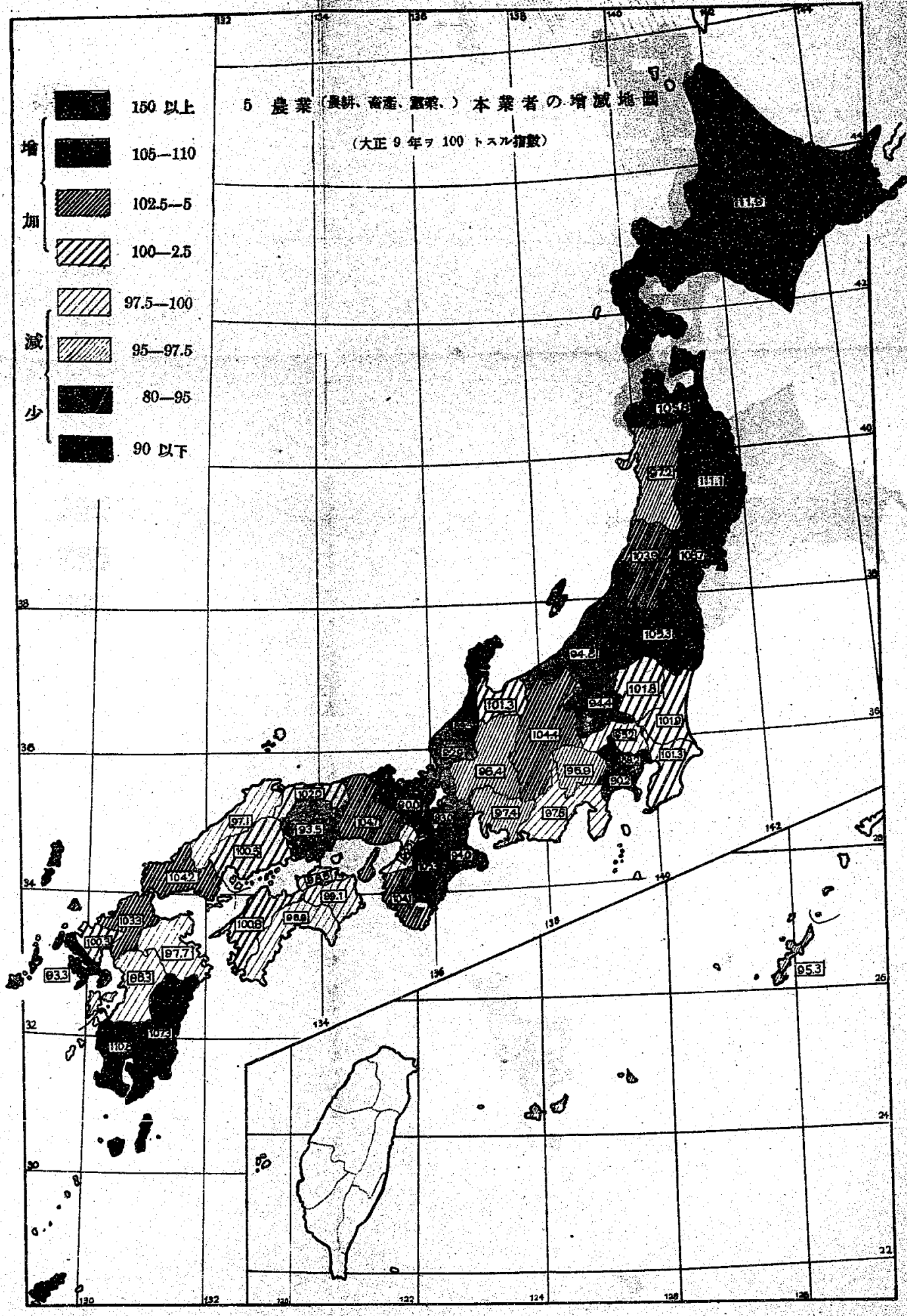
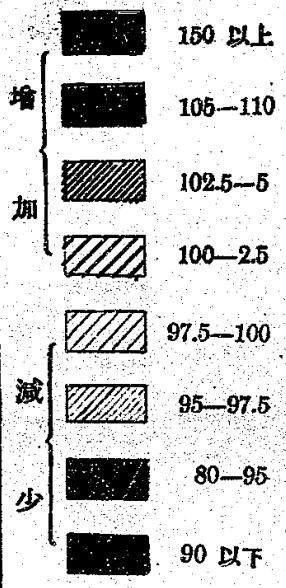
#### 4. 農業（農耕・畜産・蠶業）本業者の増減比較圖表

（左、昭和五年 右、大正九年、斜線ハ女子）



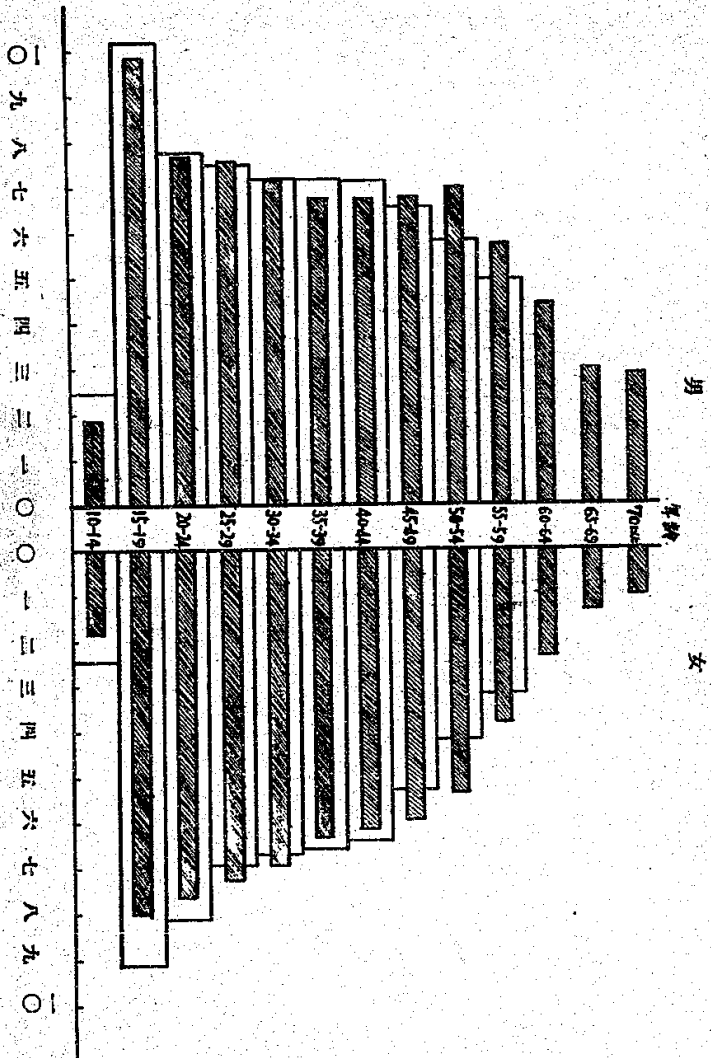


5 農業 (農耕, 畜産, 蠶桑, ) 本業者の増減地図  
 (大正9年ヲ100トスル指數)



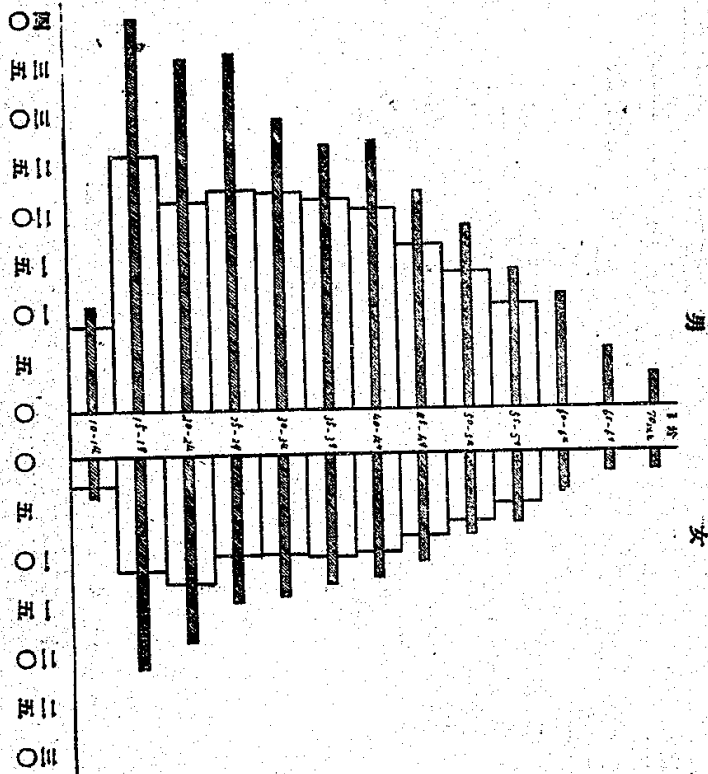
### 6. 全國農業本業者年齡構成圖

(外按大正九年、中ノ斜線ノ昭和五年) (單位十萬人)



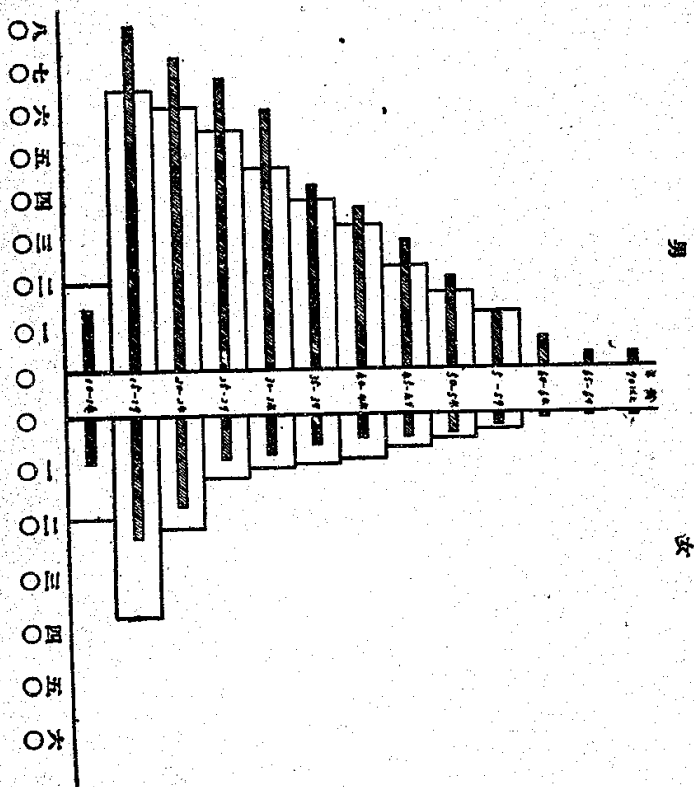
7 全國商業本業者年齡構成圖

昭和五年度(對線)及  
大正九年度  
(單位一萬人)



8 全國工業業者年齡構成圖

昭和五年度(終線)及  
大正九年度  
(單位一萬人)



## 9、道府縣別農業本業者年齢構成圖 (實數)

(註)

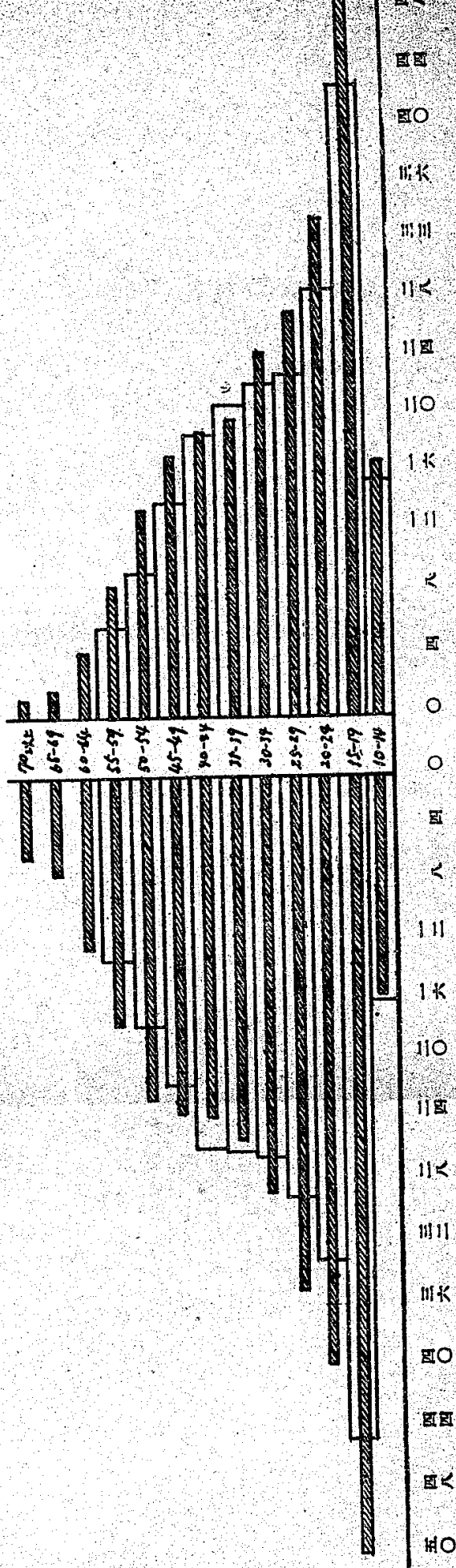
- (1) 大正九年及昭和五年職業別大分類による農業本業者の比較 (斜線は昭和五年)
- (2) 下段に記せる數字は單位千人
- (3) 一〇—一四才は、一四才以下の本業者數を合計せるもの
- (4) 大正九年には六〇才以上を一括しあるを以て省略す



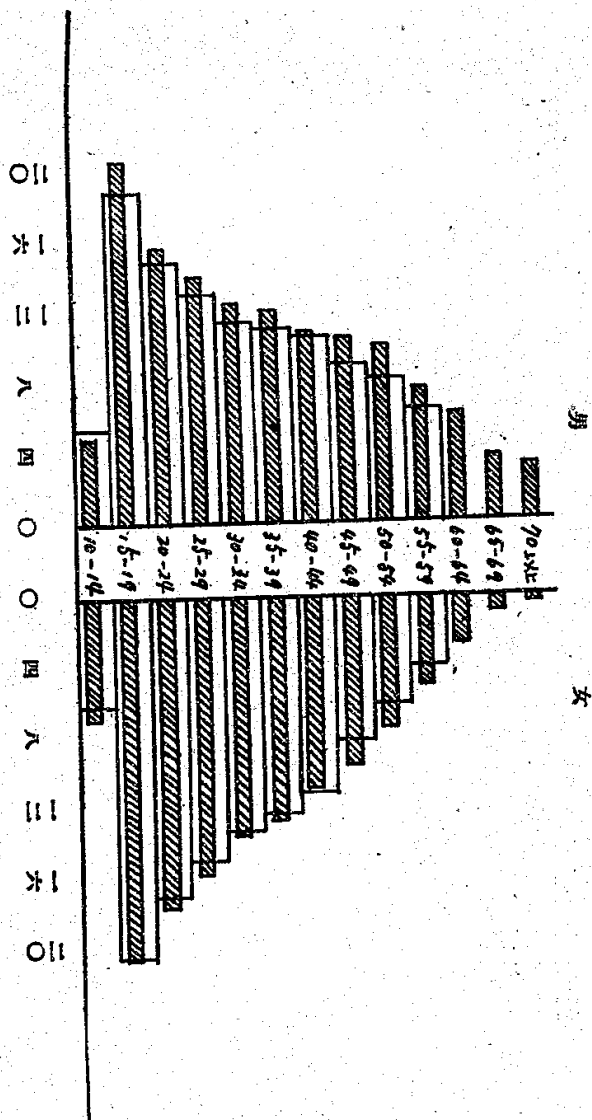
(1) 北海道

男

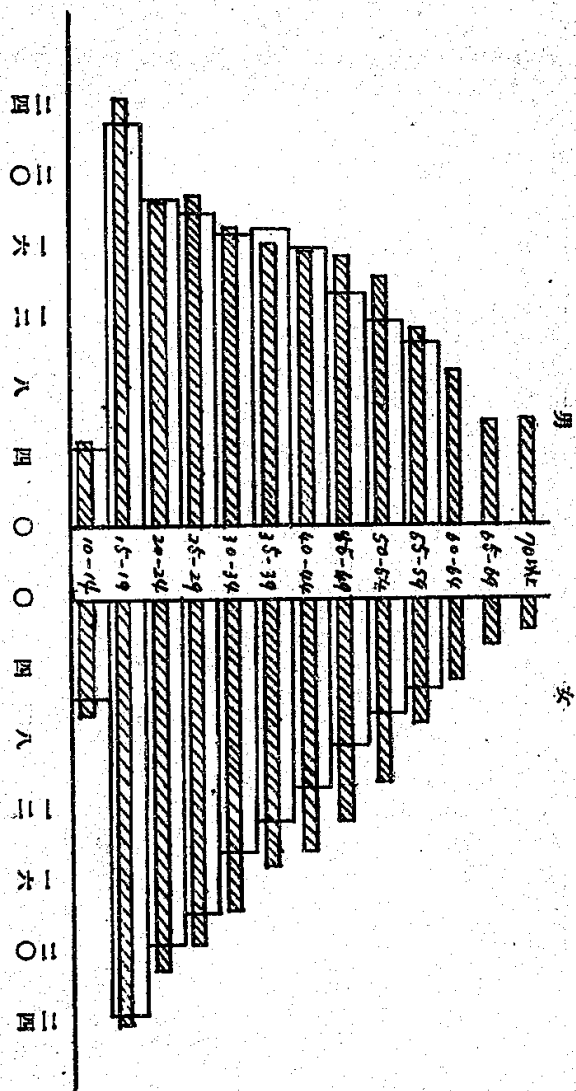
女



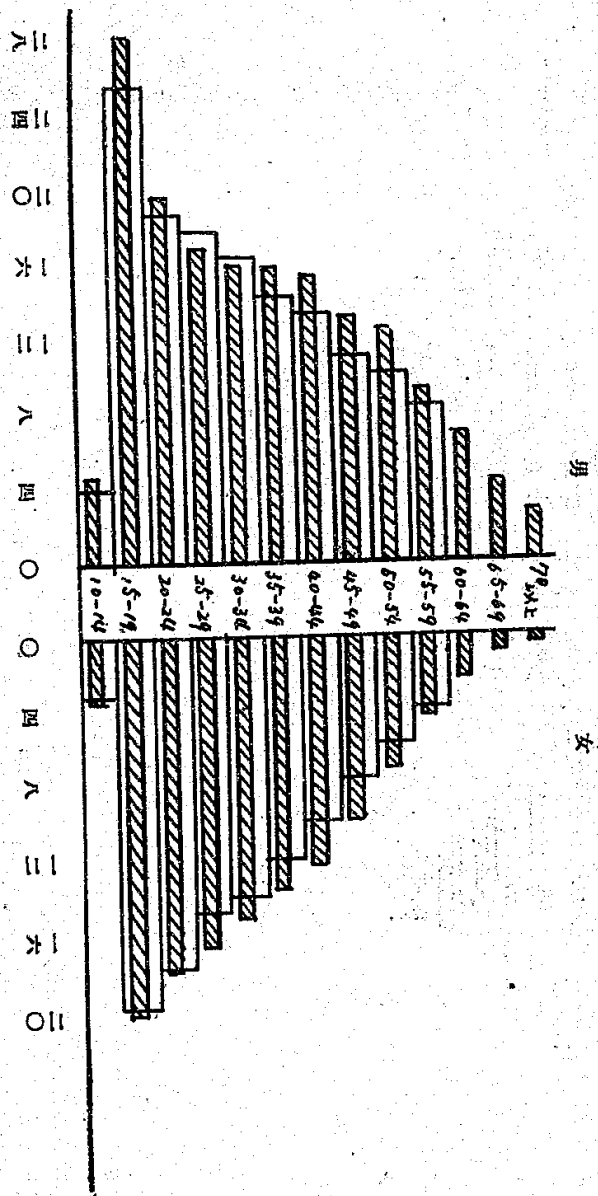
(2) 青 森 縣



(3) 岩手縣

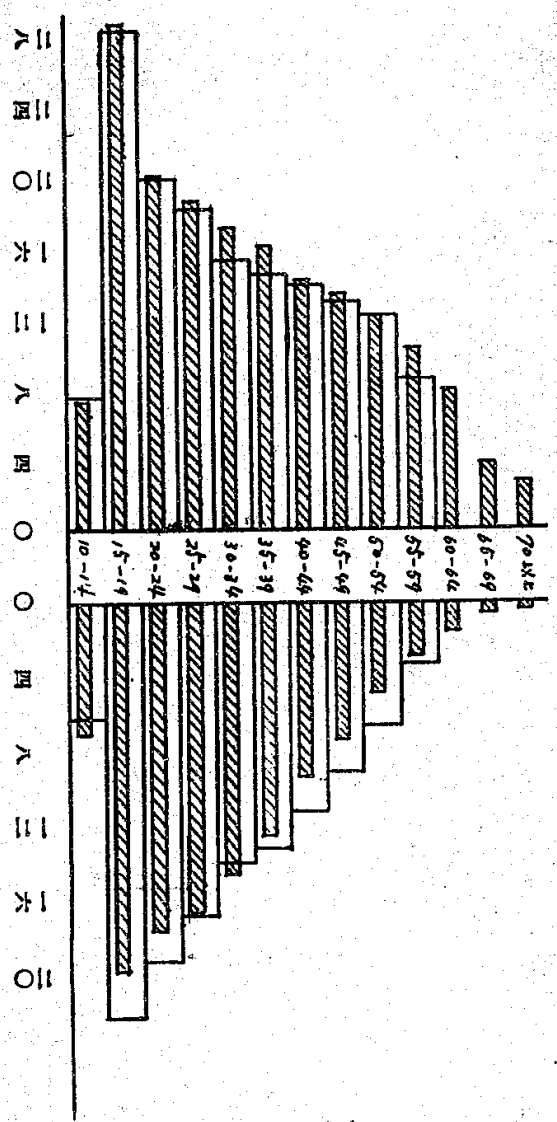


(4) 宮城縣

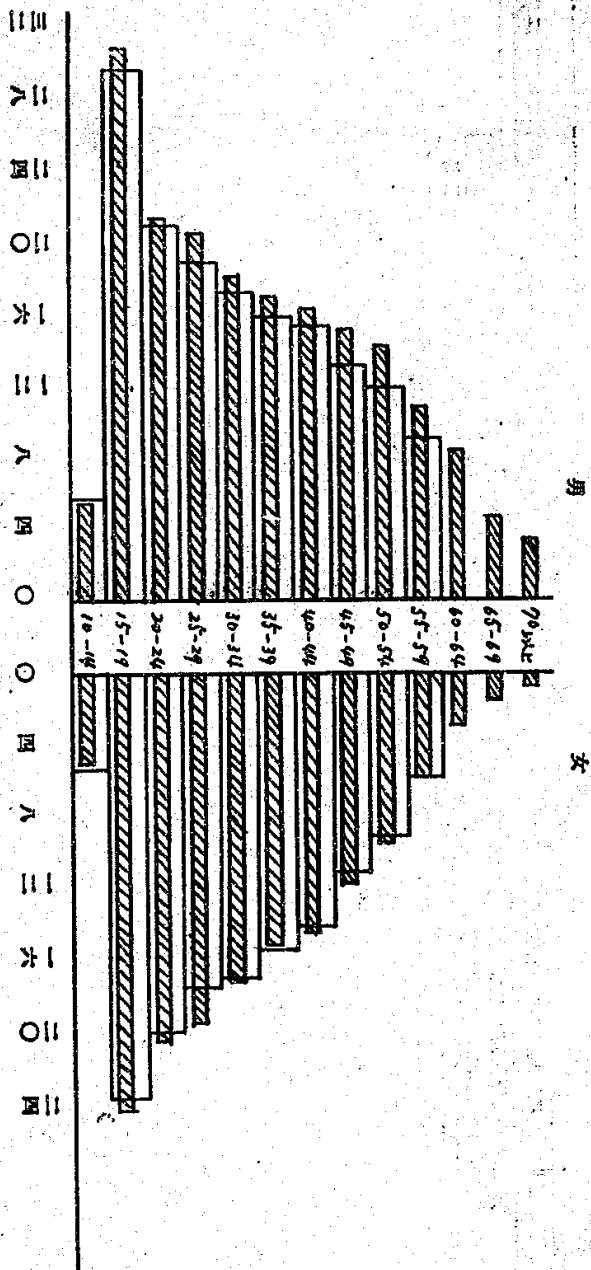


(5) 秋田縣

男 女



(6) 山形縣

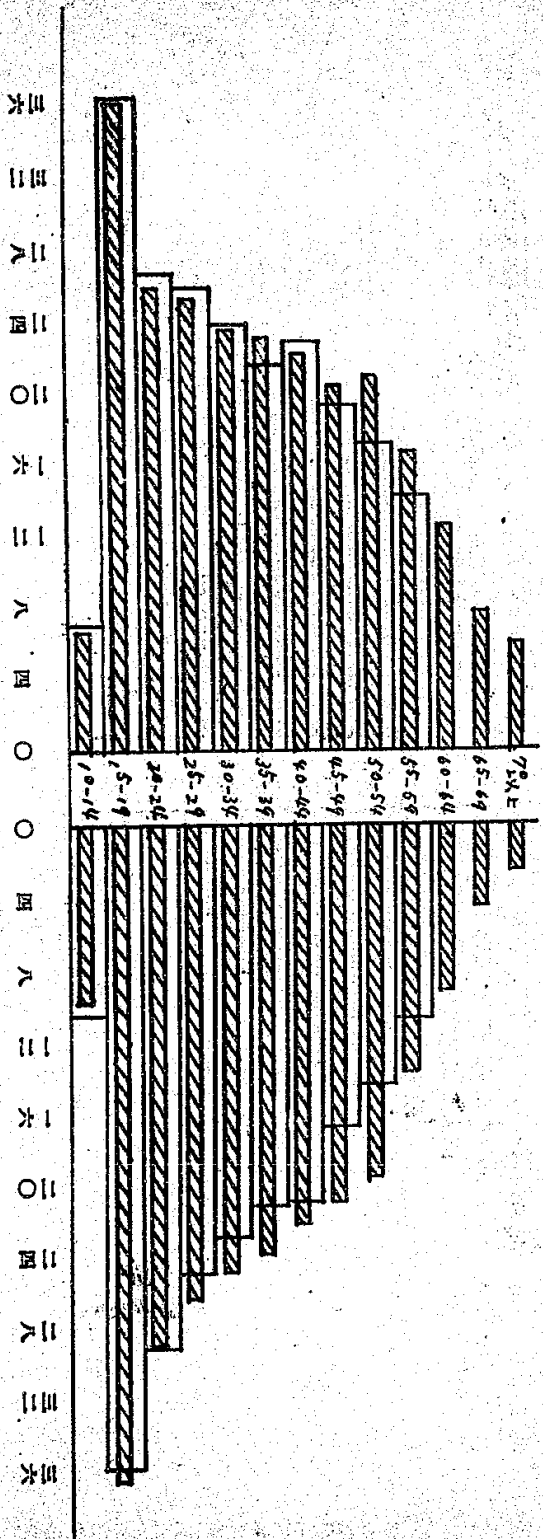




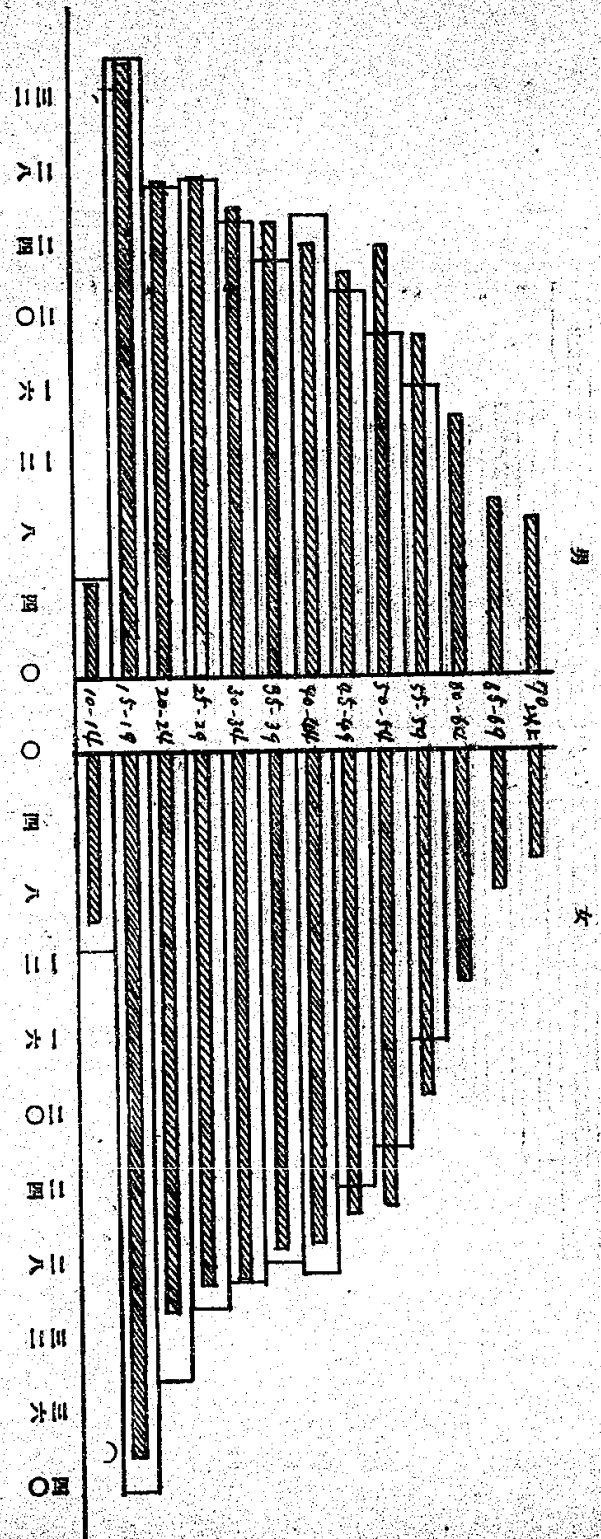
(17) 福 島 縣

男

女

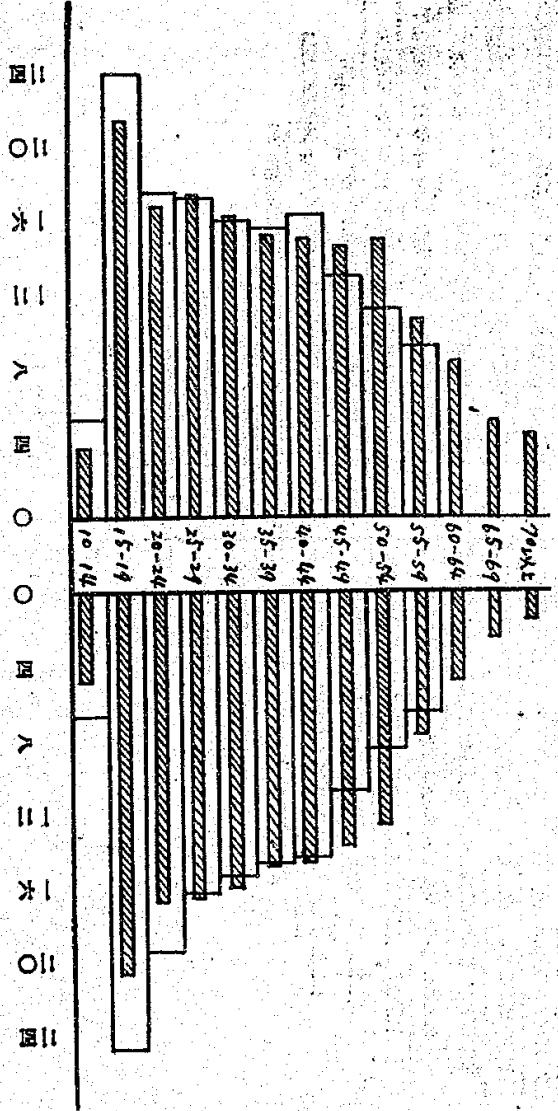


(8) 茨 城 縣

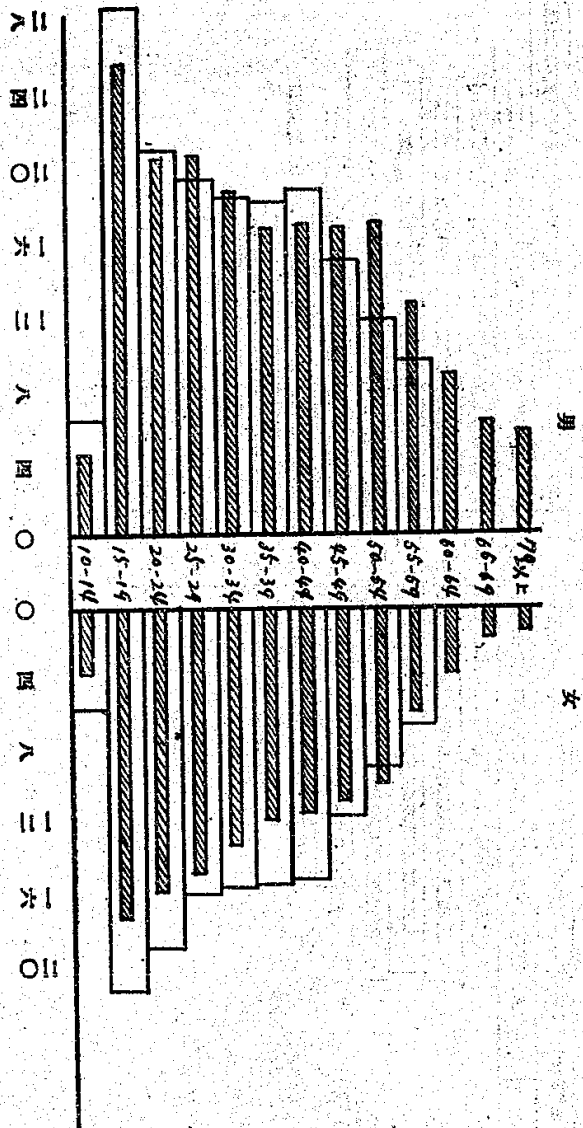


(9) 栃 木 縣

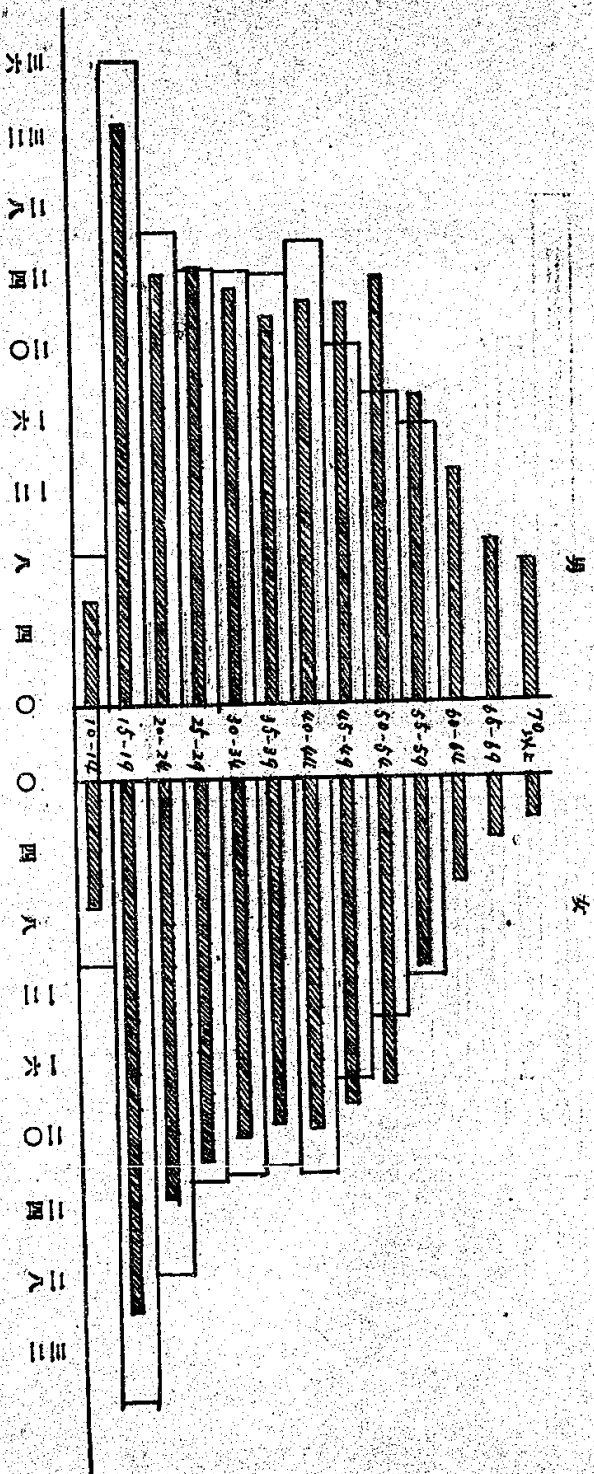
男 女



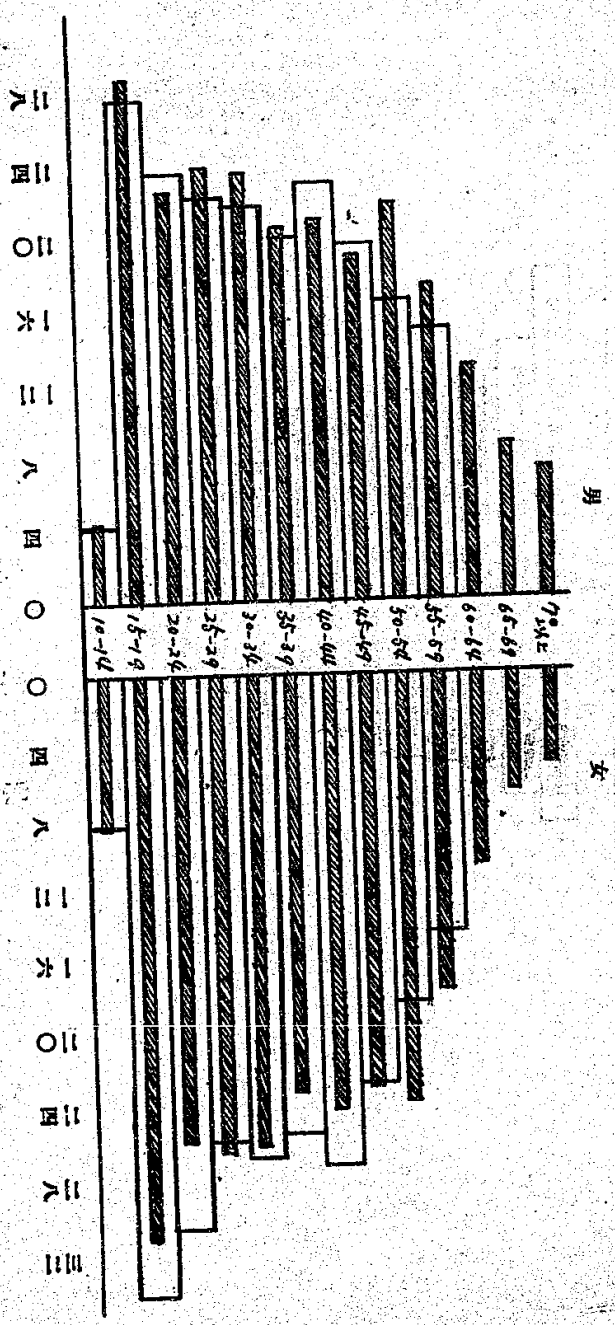
(10) 群馬縣 馬群



(11) 埼玉縣



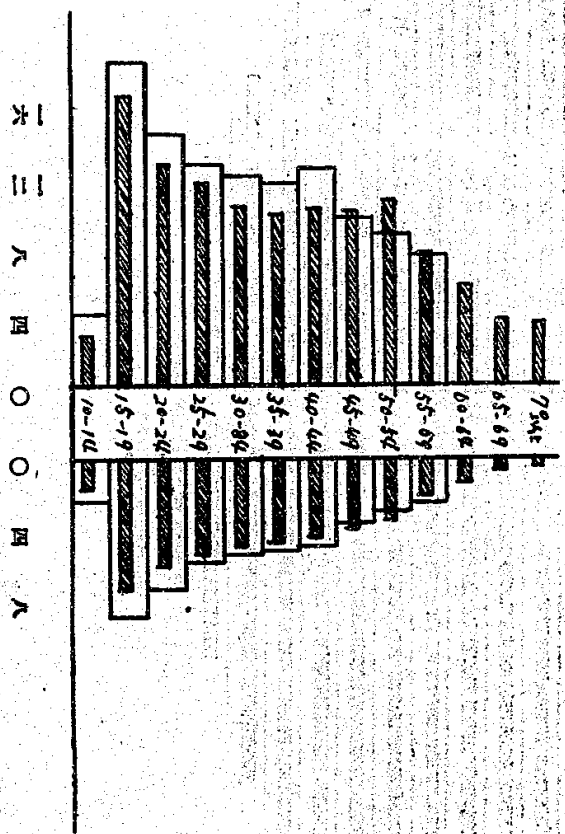
(12) 千 葉 縣





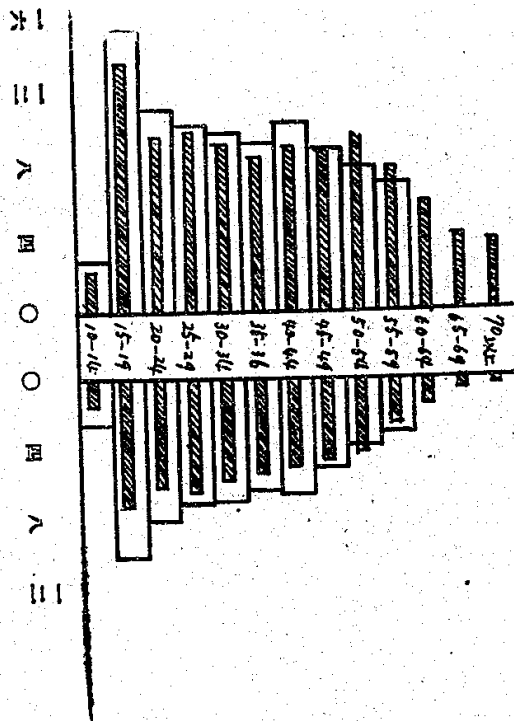
(13) 東京府

男 女



(14) 神奈川県

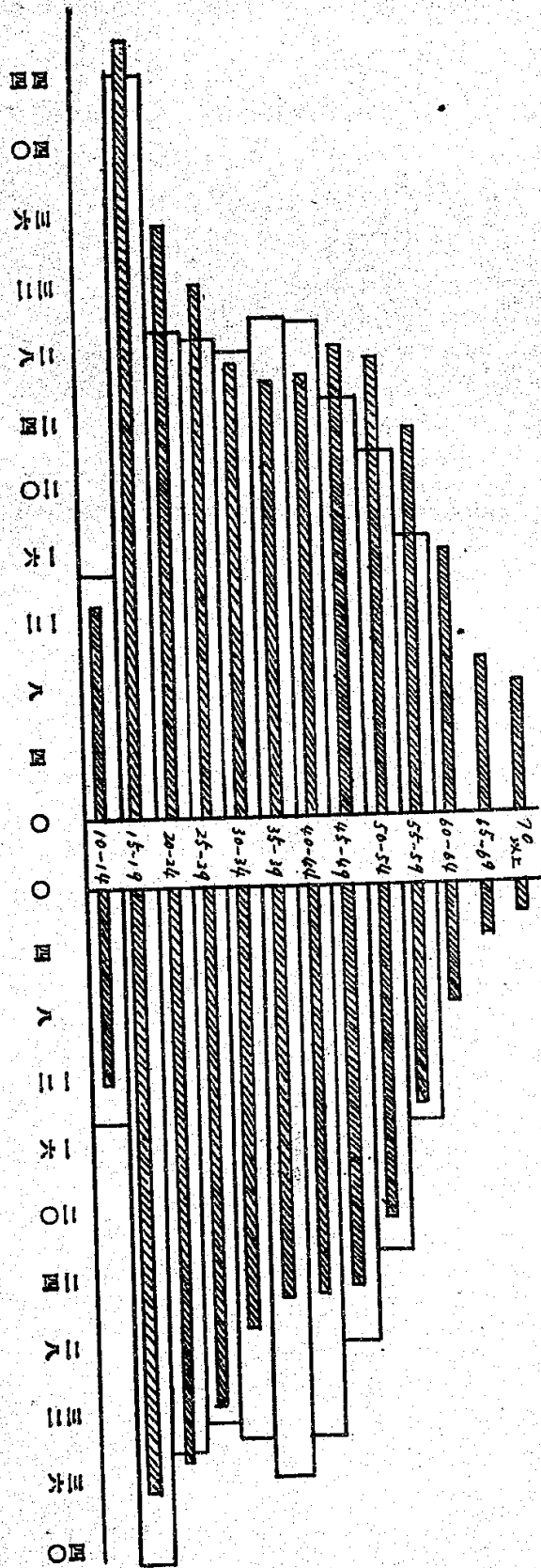
男 女



(15) 新 滄 縣

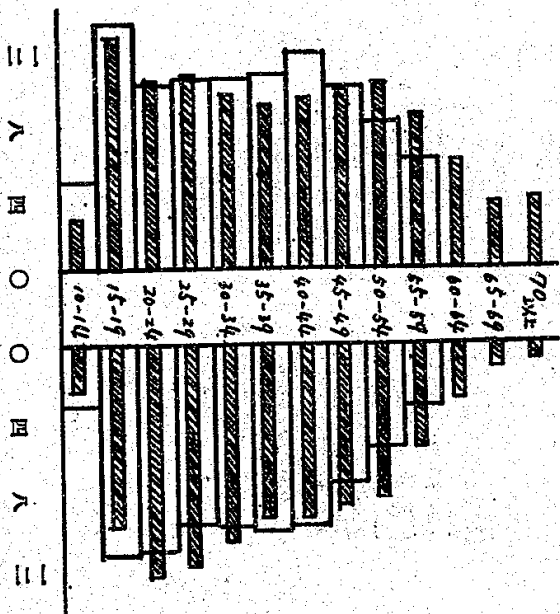
男

女

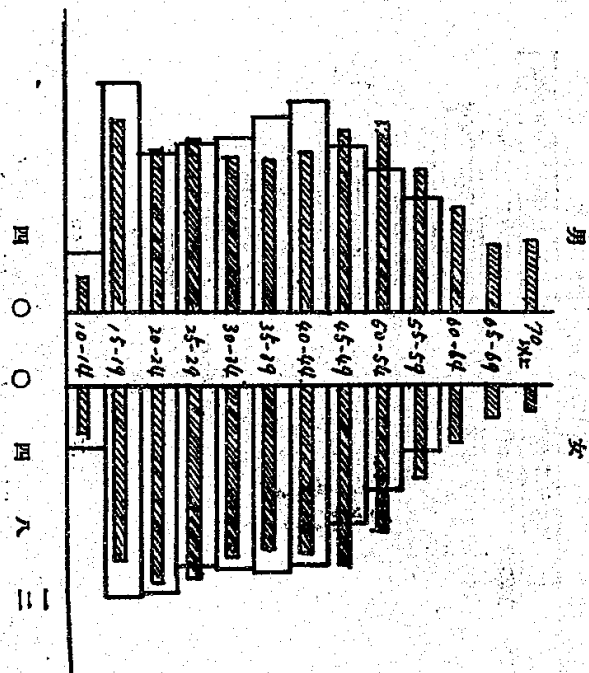


(16) 富山縣

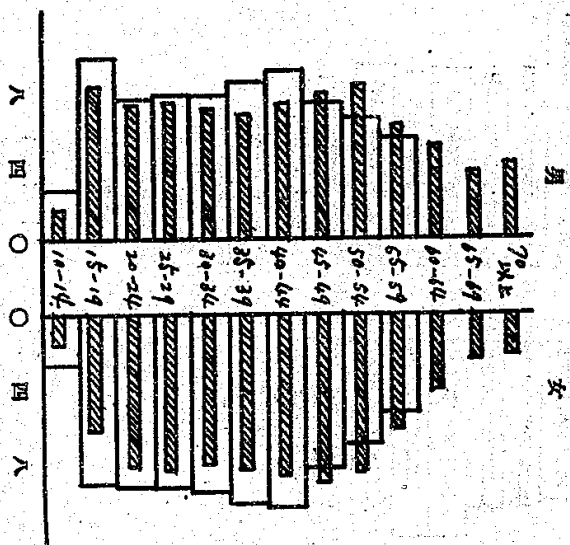
男 女



(17) 石川縣

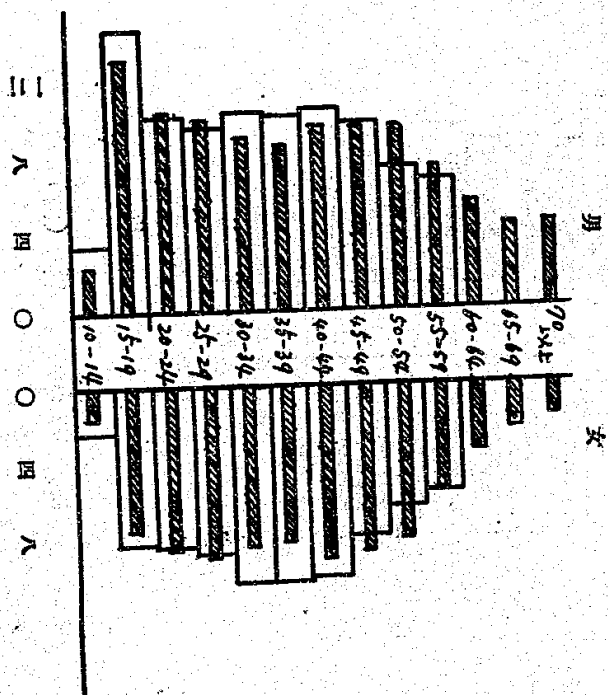


(18) 福井縣



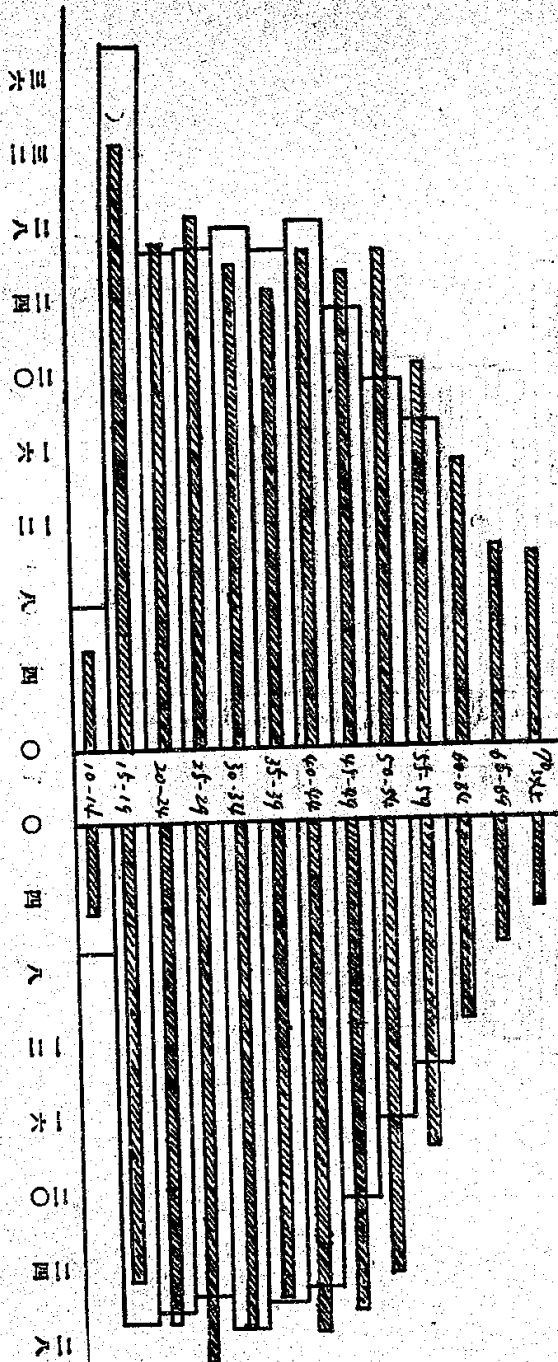


(19) 山梨縣

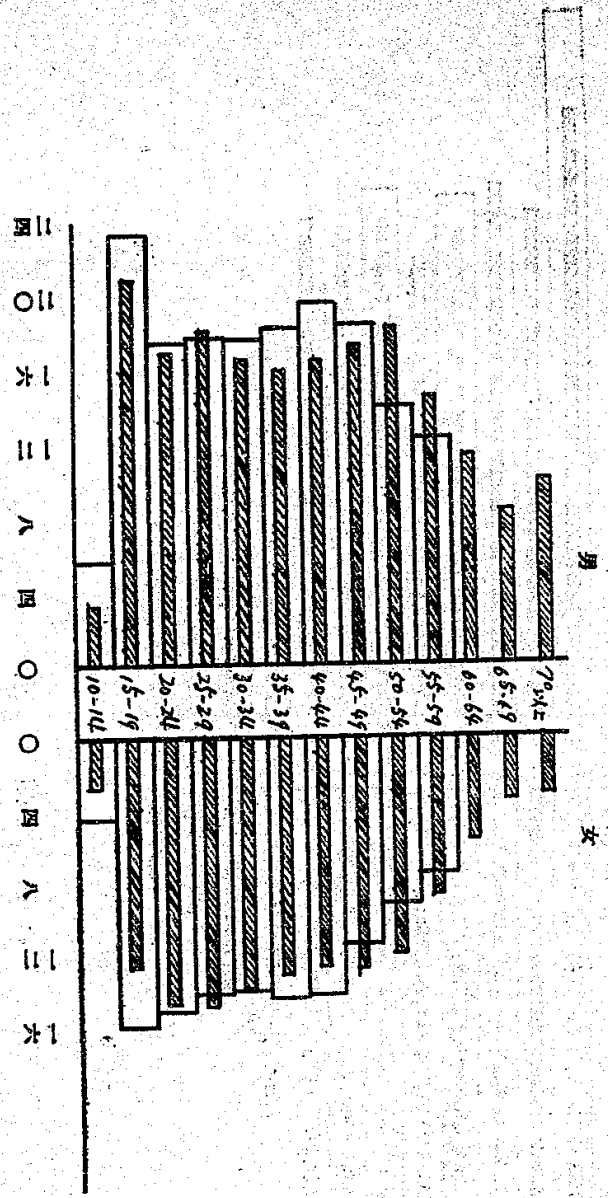


(20) 長野縣

男 女



(21) 岐 阜 縣



(22) 靜岡縣

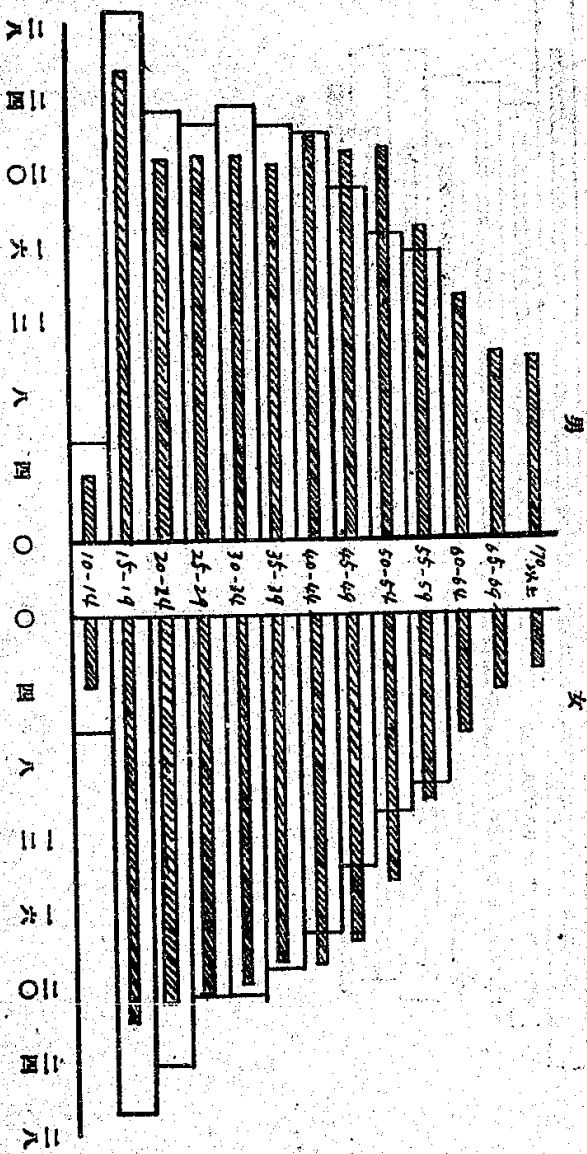
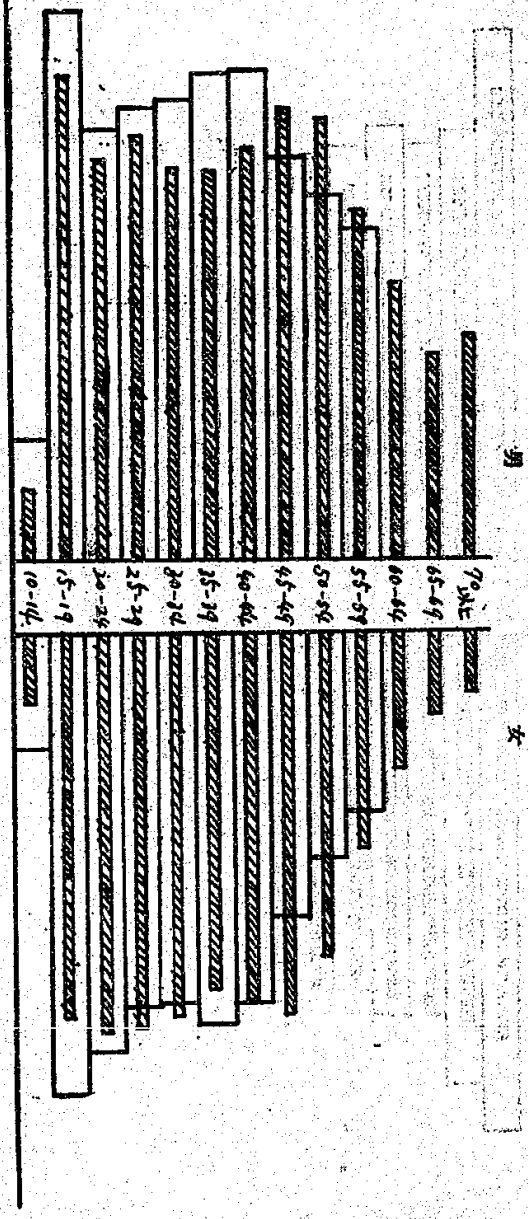


圖 1

(23) 愛知縣

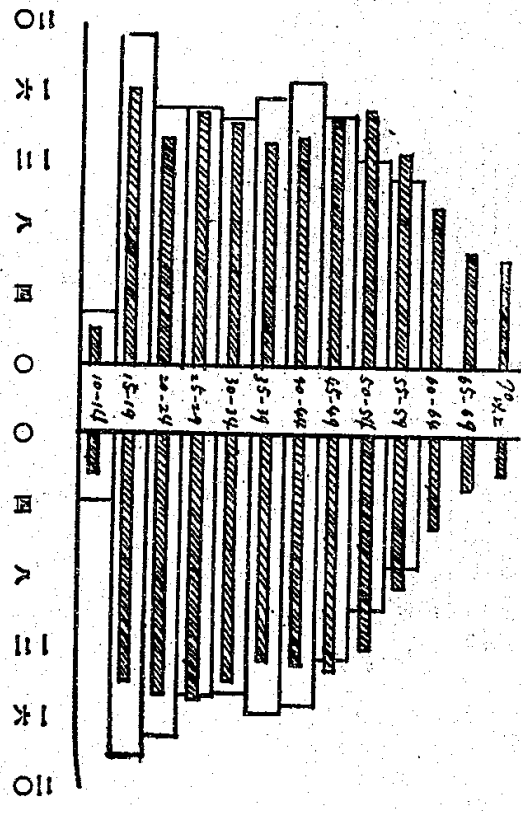


28 24 20 16 12 8 4

(24) 三 重 縣

男

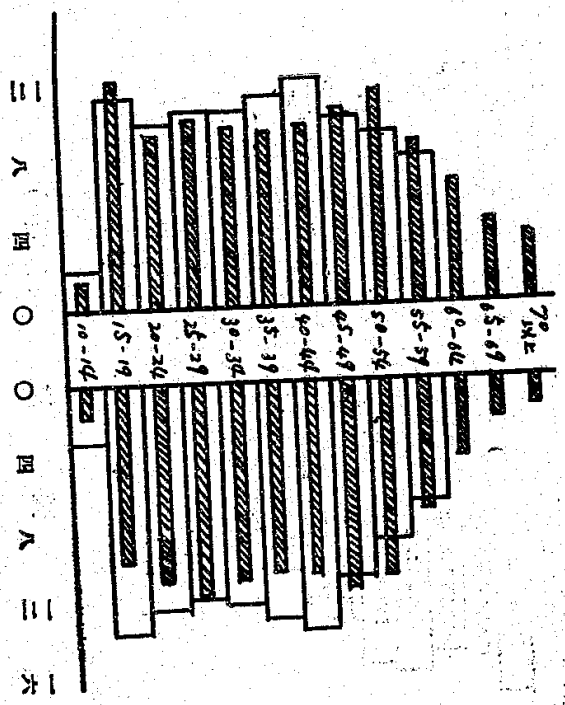
女





(25) 滋 賀 縣

男 女

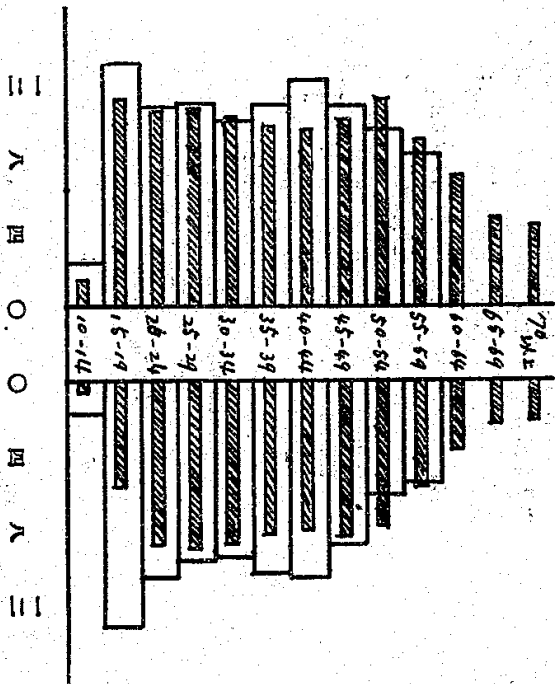


三 八 四 〇 〇 四 八 三 一 六

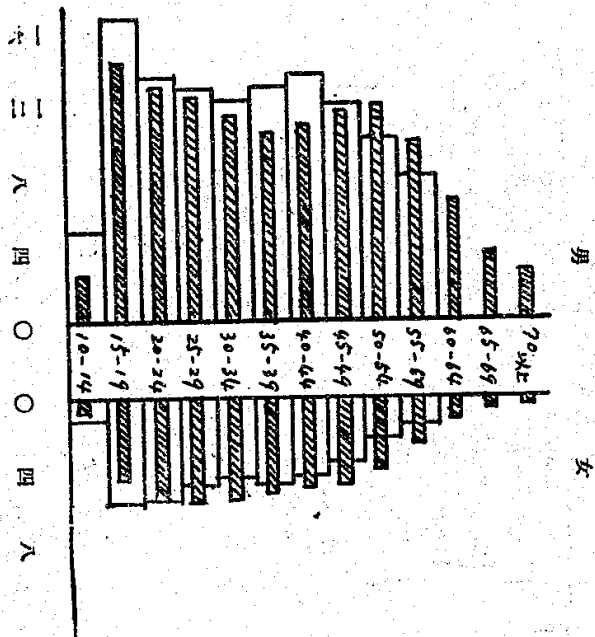
(26) 京 都 府

男

女



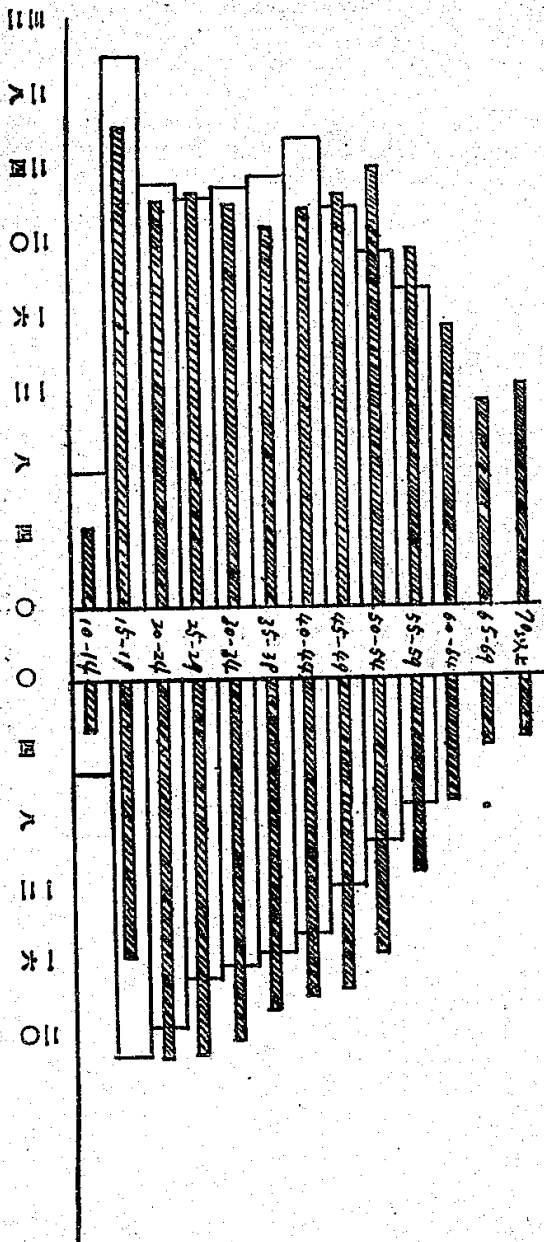
(27) 大阪府



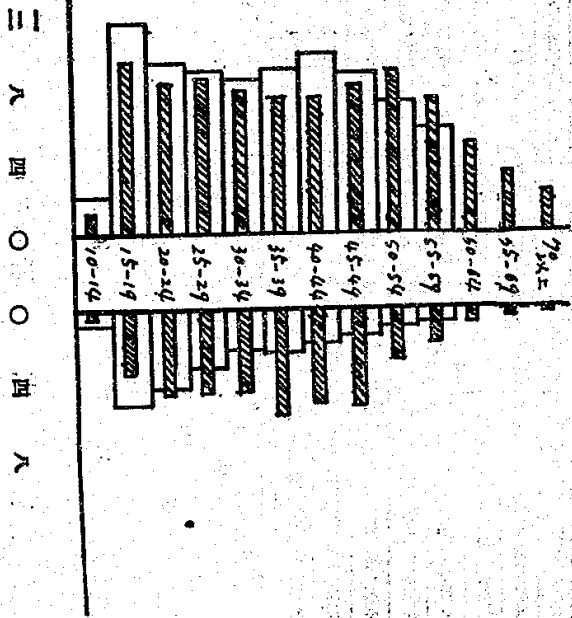
兵 庫 縣 (28)

男

女

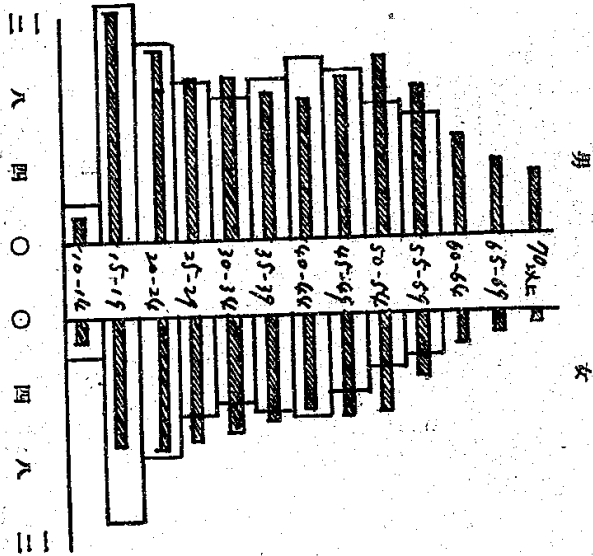


(29) 奈良縣 人口 男女



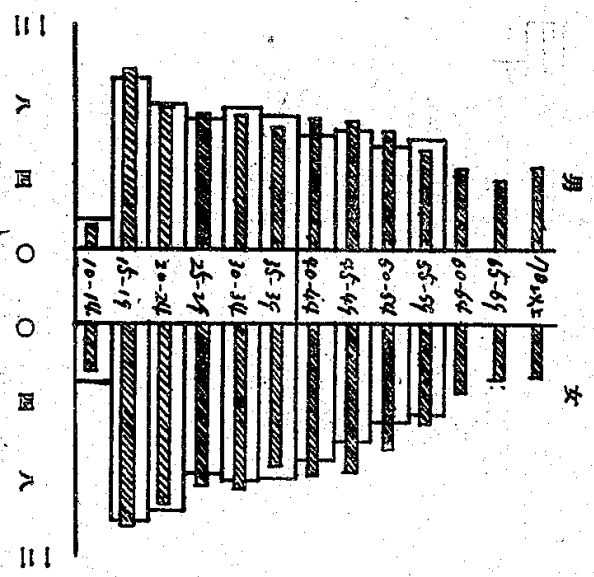
三 八 四 〇 〇 四 八

(30) 和歌山縣

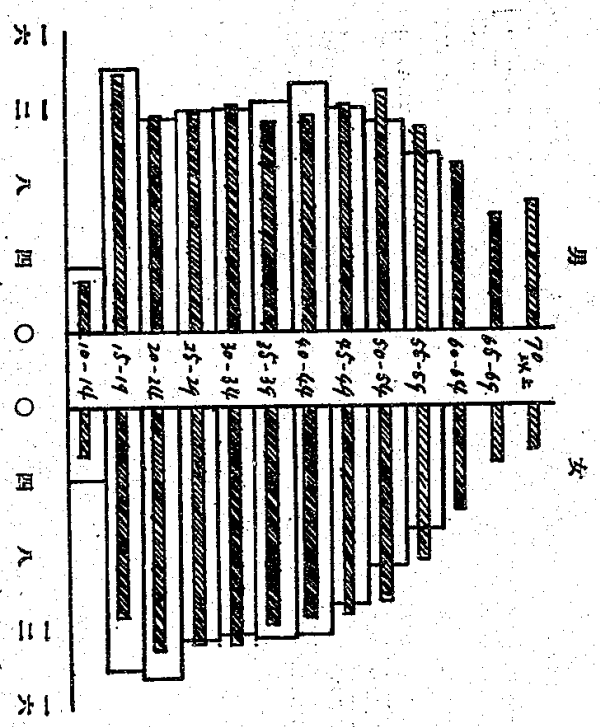




(31) 鳥取縣



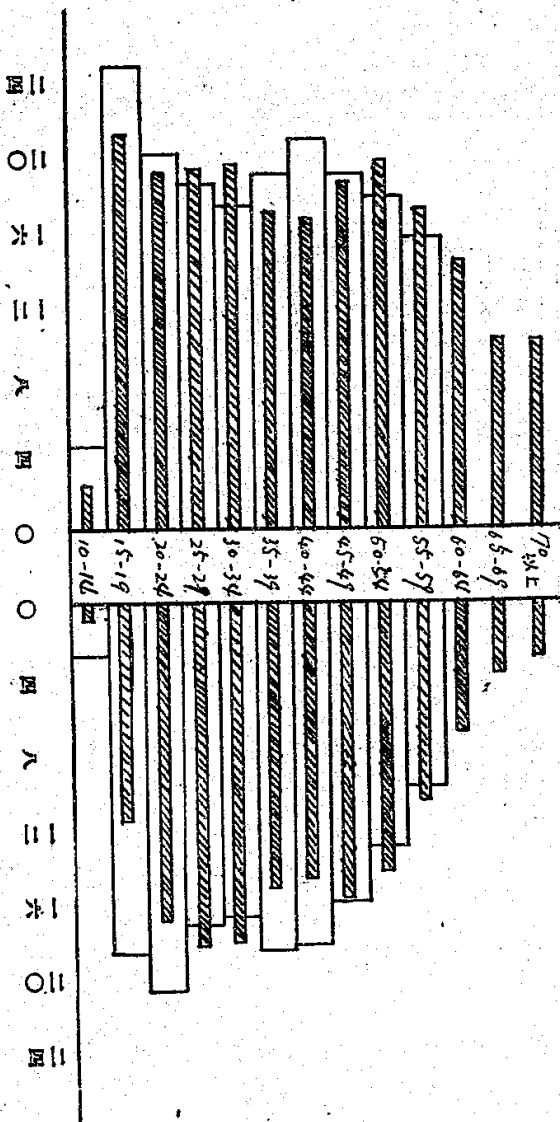
島根縣 (32)



附1

(33) 岡山縣

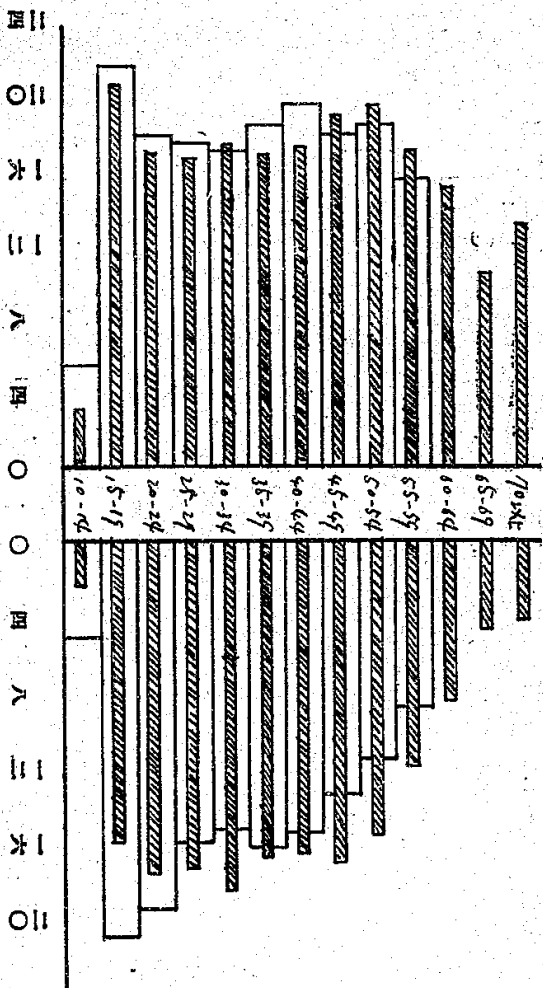
男 女



二四 二〇 一六 一八 四〇 四八 二二 二六 二〇 二四

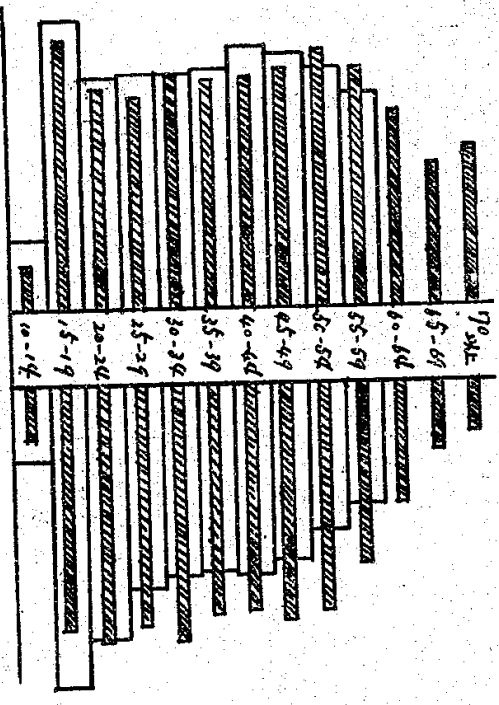
(34) 廣 島 縣

男 女



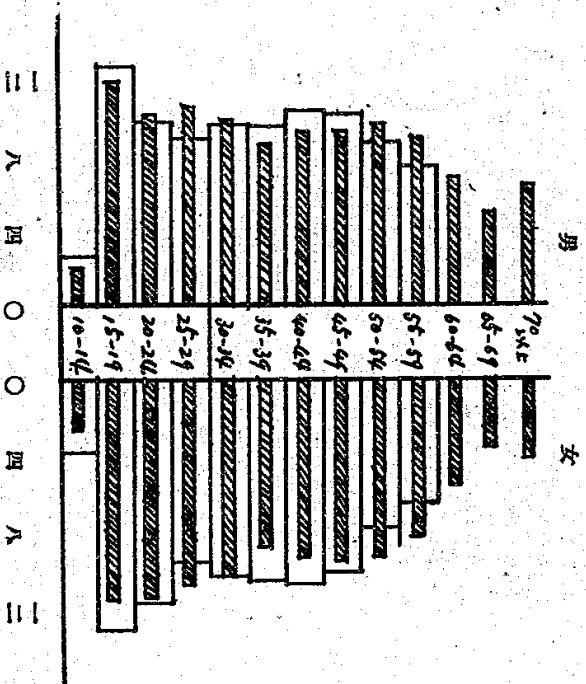
(35) 山口縣

男 女



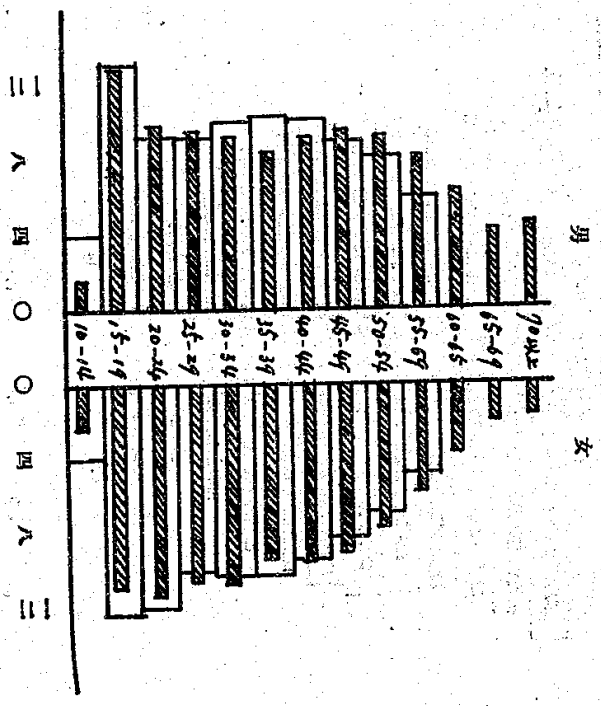
一六三〇四八二六

(36) 德島縣



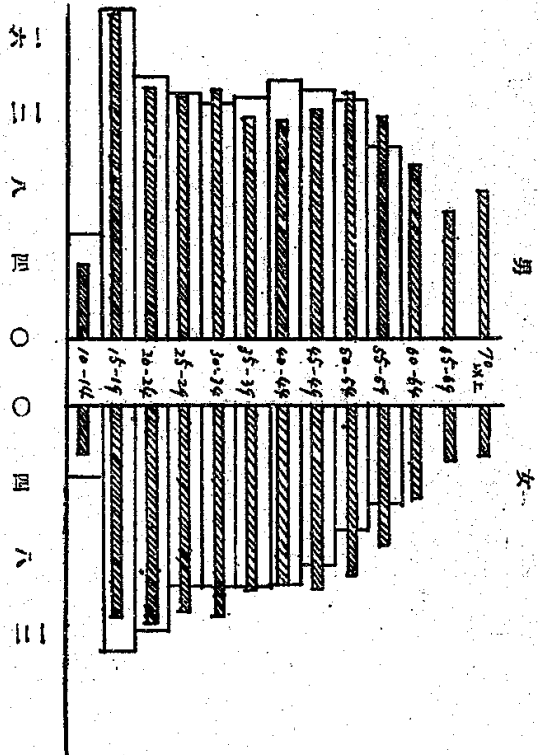


(37) 香 川 縣

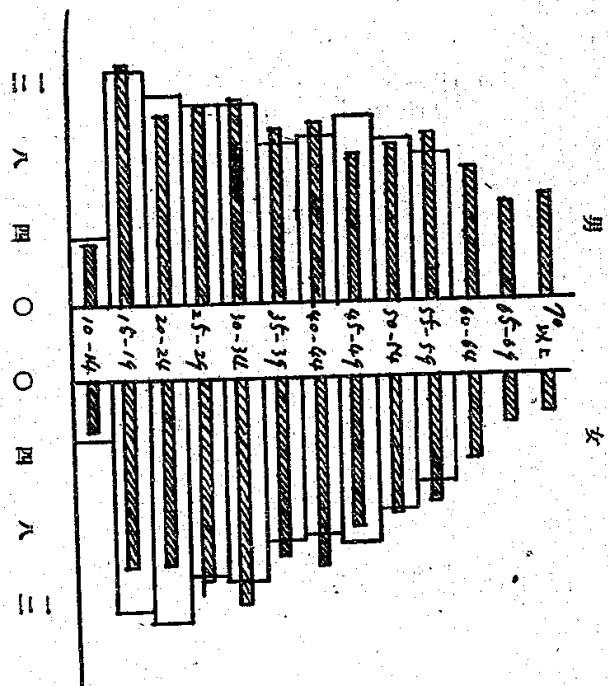


三 八 四 〇 〇 四 八 三

(38) 愛 媛 縣

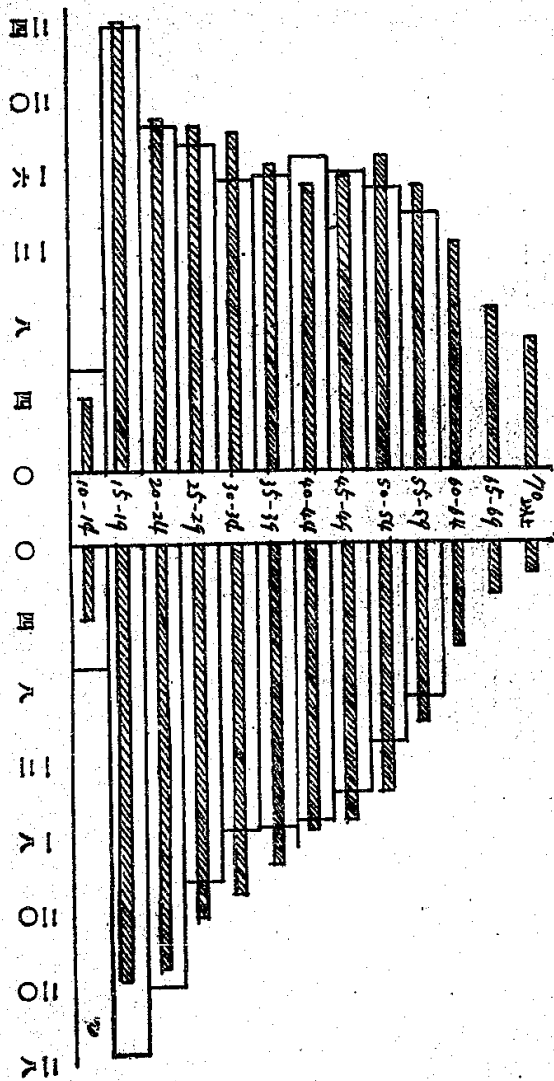


(39) 高 知 縣

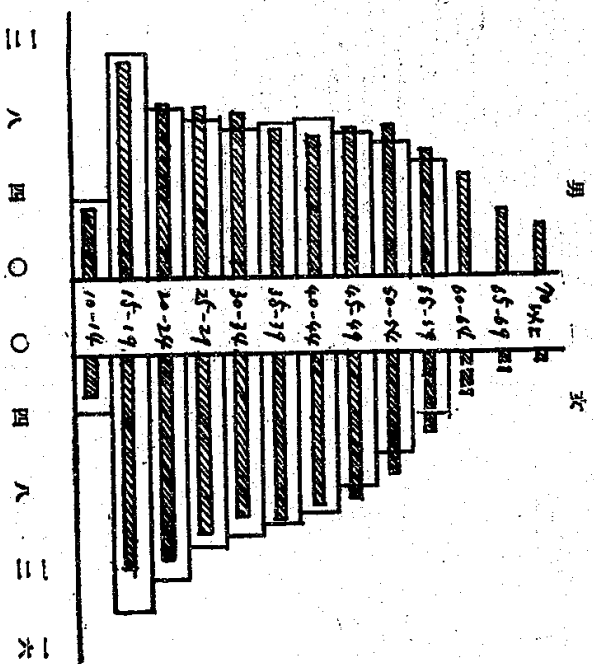


(40) 瀋 陽 縣

男 女

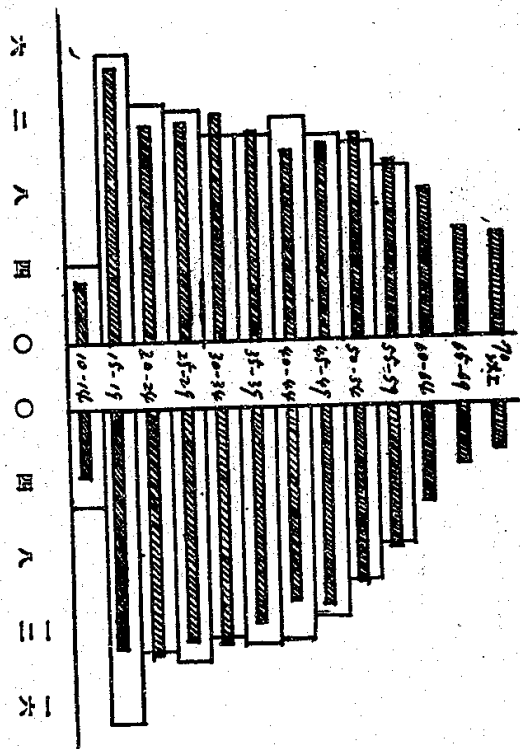


(41) 佐賀縣



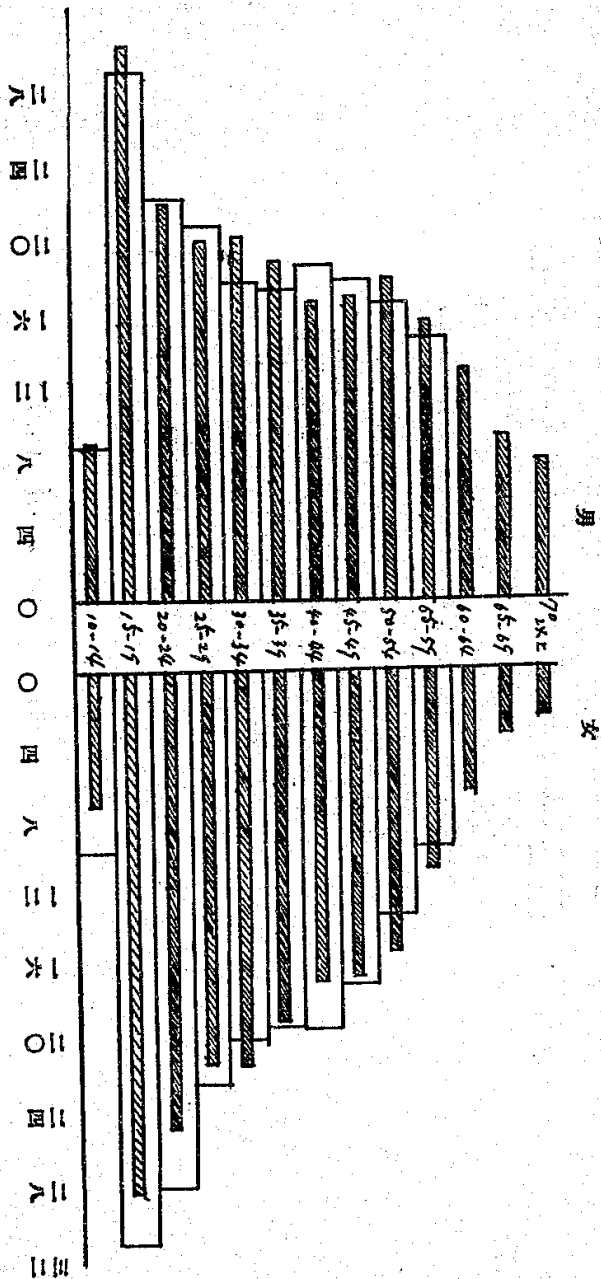
(42) 長 崎 縣

男 女

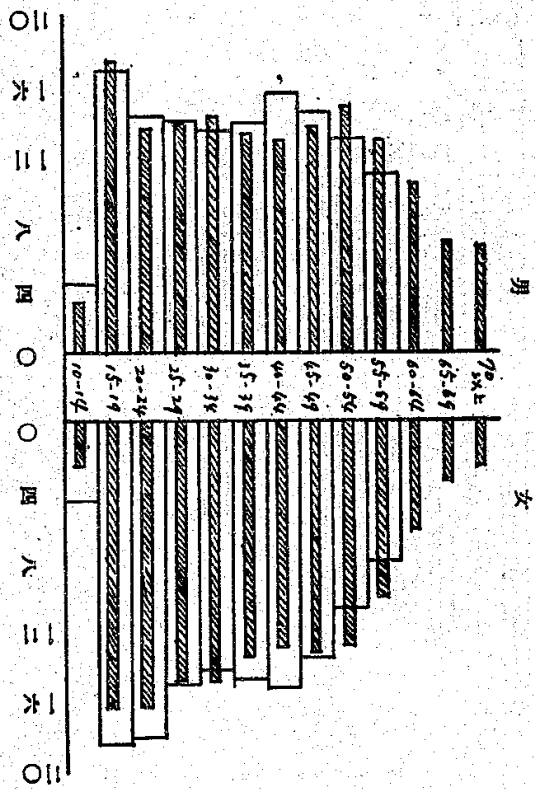




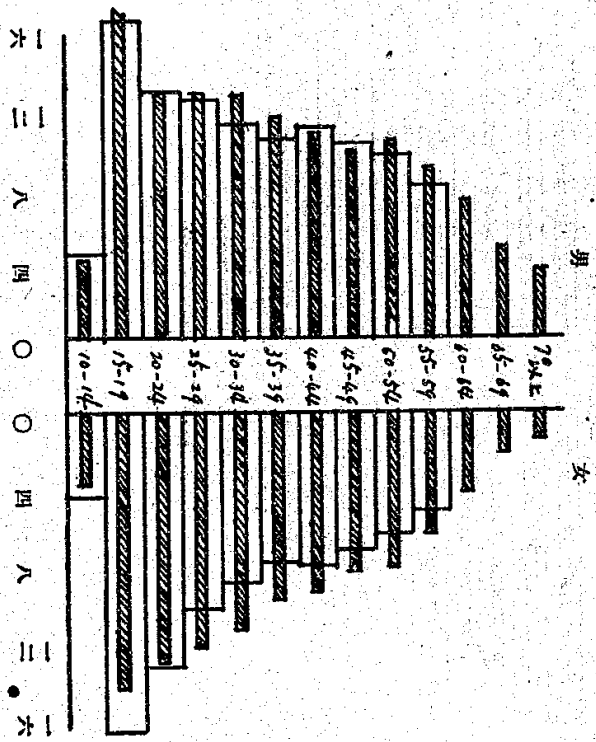
(43) 熊本縣



(44) 大分縣



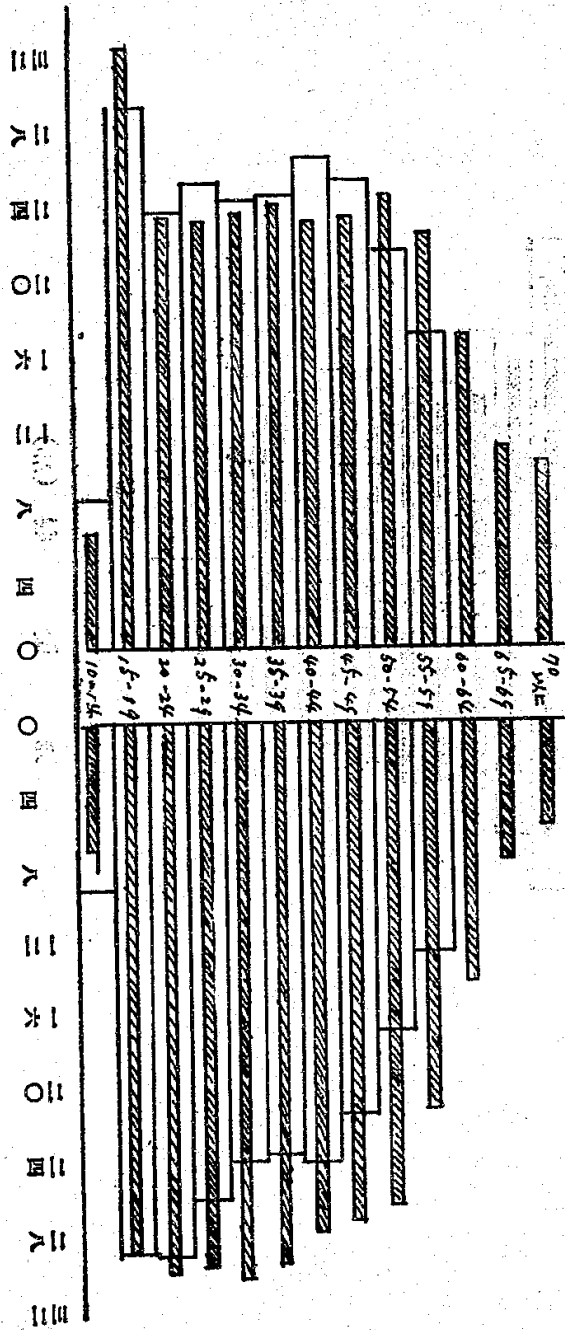
(45) 宮崎縣



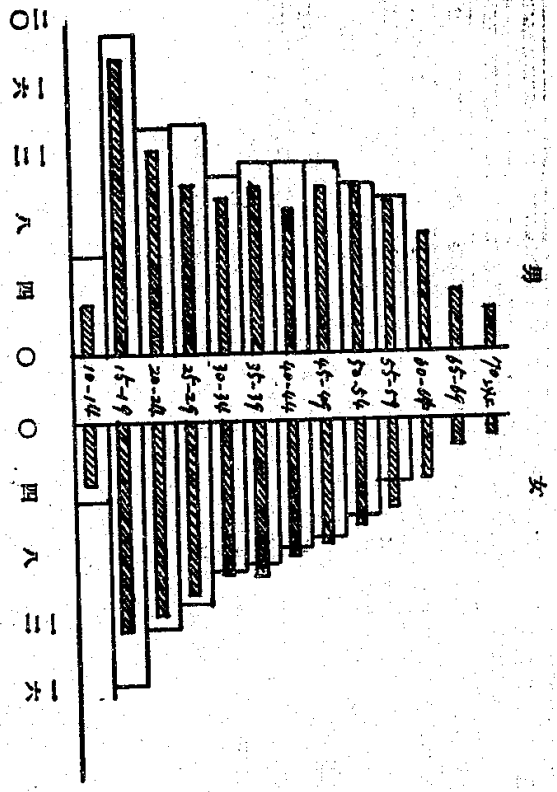
(46) 鹿兒島縣

男

女



沖繩縣 (47) 人口統計表



給付物と給付人との関係

昭和十一年四月四日印刷

【一部金六拾錢】

昭和十一年四月八日發行

内務省社會局内

編者  
發行

財團 人口問題研究會

館 稔

禁轉載

東京市世田谷區北澤三丁目九二〇番地

印刷者

今井彦太郎

東京市深川區社丹町一丁目七番地

發賣所

東京市神田區駿河區  
三丁目六番地

刀江書院

電話神田三一八九 三二七一  
(發售東京七三一八)

(今井印刷所・印刷)



財団法人 人口問題研究会編人口問題資料目録

第一輯	人口問題講演集(第一輯).....	0.35
第二輯	日本人口密度圖(刀江書院發行) .....	2.50
第三輯	我國人口問題の解決方針(懸賞論文集) .....	2.50
第四輯	人口問題講演集(第二輯) .....	0.35
第五輯	一九三一年ローマ國際人口會議資料 .....	1.90
	マルサス教授後人口問題講演集(第三輯).....	近刊
第七輯	マルサス教授後人口問題資料展覽會寫真集 .....	1.00
第八輯	マルサスに關する文獻集(吉田秀夫編) .....	0.60
第九輯	東北地方の人口に關する調査 .....	0.45
第十輯	東北地方土地人口基本圖(刀江書院發行) .....	近刊
第十一輯	東北地方の産業と人口(第二回同攻者會合記録) .....	0.45
第十二輯	人口問題講演集(第四輯).....	近刊
第十三輯	本邦人口増加の傾向及數量的變動 .....	0.65
第十四輯	我國人口問題の諸研究(第三回同攻者會合記録).....	0.60
第十五輯	府縣別農業本業者數及其年齡構成(上田理事研究報告).....	0.60
第十六輯	支那人口問題研究(飯田茂三郎執筆) .....	0.60
第十七輯	都鄙人口に關する諸問題(第四回同攻者會合記録) .....	近刊
第十八輯	人口問題講演集(第五輯).....	近刊
第十九輯	第五回同攻者會合記録 .....	近刊
四季報	人口問題第一卷第一號(昭和十年一月) .....	1.00
四季報	人口問題第一卷第二號(昭和十年十月) .....	1.00
四季報	人口問題第一卷第三號(昭和十一年三月) .....	1.00